

2021 年度
関西福祉科学大学大学院
社会福祉学研究科
心理臨床学専攻

修士論文題目

大学生の死に対するイメージに関する研究
：一人称の死・二人称の死・三人称の死の検討

指導教員（ 小笠原 將之 教授 ）

社会福祉学研究科心理臨床学専攻

学生番号 12020005 氏名 南 茉里

【目次】

I	問題	2
1)	<u>我が国の自殺の現状</u>	
2)	<u>死を取り巻く環境</u>	
3)	<u>若者の死に対する意識</u>	
II	目的	6
III	方法	7
1)	<u>手続き</u>	
2)	<u>質問紙の構成</u>	
IV	結果	8
1)	<u>一人称の死・二人称の死・三人称の死に対する単独形容詞 SD 法におけるイメージ</u>	
2)	<u>性差が一人称の死・二人称の死・三人称の死に対するイメージに及ぼす影響</u>	
3)	<u>トラウマ経験の有無が一人称の死・二人称の死・三人称の死に対するイメージに及ぼす影響</u>	
4)	<u>不安特性が一人称の死・二人称の死・三人称の死に対するイメージに及ぼす影響</u>	
5)	<u>うつ特性が一人称の死・二人称の死・三人称の死に対するイメージに及ぼす影響</u>	
6)	<u>罪悪感特性が一人称の死・二人称の死・三人称の死に対するイメージに及ぼす影響</u>	
V	考察	38
1)	<u>一人称の死・二人称の死・三人称の死に対するイメージの分類相互の位置づけ</u>	
2)	<u>個々人の特性が一人称の死・二人称の死・三人称の死に対するイメージに及ぼす影響</u>	
VI	本研究の限界と今後の課題	44

参考・引用文献

<謝辞>
<付録>

I 問題

1) 我が国の自殺の現状

現在、日本における自殺者は高い水準にある。厚生労働省（2020）が作成した令和元年版自殺対策白書内では、WHO（世界保健機関）の統計をもとに我が国の自殺死亡率を国際的に分析しており、諸外国の自殺死亡率において日本は9番目に高く、男女別にみると男性が15番目、女性が4番目となっている。G7（先進7カ国首脳会議）の自殺死亡率では、フランス13.8%、アメリカ13.8%、ドイツ12.3%、カナダ11.5%、イギリス7.5%、イタリア6.6%に対して、日本が18.5%とトップに位置し、若年層（15～34歳）の自殺と事故の死亡率を比較すると自殺が事故を上回ったのは日本だけであった。

また、2021年に厚生労働省自殺対策推進室と警察庁生活安全局生活安全企画課が発表した自殺統計では、2020年の国内自殺者数は21,081人と前年に比べ912人増え、これまで10年連続で減少していたが、リーマン・ショック直後の2009年以来11年ぶりに増加に転じる結果となった。男女別にみると、絶対数では男性の自殺者数のほうが女性の約2.0倍多いことは留意すべきであるが、男性は11年連続で減少した一方、女性は2年ぶりの増加となった。年齢階級別にみると、40代が3,568人と最も多く、次いで50代が3,425人と中高年層の割合が高かった。しかし、増減率では20代（2,521人）が19%増（前年比404人増）と最も高く、次いで19歳以下の未成年（777人）が18%増（前年比118人増）であった。学生・生徒らの自殺の増加も目立った。以前から、自殺は10～39歳の死因の第一位を占めていたが、職業別にみると学生・生徒らの自殺者が、年々やや減少してきていた2018年の812人から2019年に888人、2020年には1,039人と2011年以来の1,000人台に達した。女性や若年層の自殺者数の増加が目立つ結果となった背景には、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う外出制限や生活環境の変化などが影響した可能性が考えられている。

以上のことから、若年層、特に青年期への自殺対策はまさに喫緊の課題であるといえる。自殺対策を講じるためには、自殺のみならず、死を取り巻く環境や死に対する意識がどう変化しているのかを整理する必要があるだろう。

2) 死を取り巻く環境

我が国は近年、死ぬことについて実感を伴うものとして意識することが難しい時代であるといわれてきた。その理由として、実感を伴う「リアルな死」が日常から切り離されたことと、それに替わって実感を伴わない「バーチャルな死」が日常に入り込んできたことが挙げられる。

前者について、もともと「死」は本人のものであることはもちろん、家族のものであり、地域のものであった。戦前までは、人が生まれるのも死ぬのも家、

ひいては地域の中で起こり、周知の出来事だったからである。ところが、科学・医療技術が急速な進歩を遂げ、人の命は機械によって生かされるようになった結果、迎える死は医療者と機械に囲まれた病院での死となり、家族も地域もその場面に登場することがなくなってしまった。実際、人口動態調査（2021）によると、死を迎える場所は1960年に自宅が70.7%、病院が18.2%であったのに対し、最新の調査データである2019年に自宅が13.6%、病院が71.3%へと変化している。その結果、看取り経験のない若者の数は増加し、日常生活において死が語られることはなくなってきた。1951年から2019年まで記載されている同調査データの中で、病院での死亡者数がピークであった2005年（自宅が12.2%、病院が79.8%）と比較すると、近年は老人ホームや介護医療院・介護老人保健施設など、家族や地域が死に関わる機会は若干増えつつあるが、未だ緩やかな増加にとどまっており、さらに、昨今の新型コロナウイルス禍では、病院での死亡者数が再度、しかも爆発的に増加することが予想される。また、私たち日本人が持つ「死は忌むべきものである」という文化的な背景からも、死はますます日常から遠ざかっていく危険性があるといえる。実際、伊藤（2007）は、大学生を対象として死や死後のイメージに関するアンケートとインタビューを実施した結果、近親者を亡くした若者の死生観として、死について語ることがタブー視されているという特徴や、自分と年齢が近い他者の死の体験を通じたとしても、自分の死すべき運命と結びつけて考えることはしないという、他者の死と自己の日常の乖離という特徴を見出している。

一方、後者について、TV、映画、ゲーム、漫画などに見られるように、残酷な死や機械的な死、美化された死といった「バーチャルな死」が私たちの日常生活に大量に入り込んできている。つまり、現代人は「リアルな死」を経験することなく、実体験のない非現実的な「バーチャルな死」に取り囲まれるという環境に置かれてしまっているといえる。藤井（2003）は、このような逆説的な状況が生きること死ぬことについての感覚を鈍らせた結果、本来は生の連続性の中で捉えられるべき死が生を意識させないものになり、生と死は別物のように扱われ、死については未知のものに対する恐れが増加する一方、未知であるが故に関心を向けにくいという両極端のベクトルが表れていると考察している。

3) 若者の死に対する意識

では、死を取り巻く環境が大きく変わった現在、若者は死をどのように捉えているのだろうか。若者、中でも大学生が該当する青年期は、児童期から成人期への移行段階であり、大人になるための準備期間にあたるといえる。身長・体重の変化は緩やかになり、第二次性徴も経て、身体的には成人と変わらない成長を見せる一方、精神的な成熟、所謂「自分とは何者なのか」というアイデンティティの確立は青年期を通しての課題となる。この時期は、第二次性徴という身体の急激な変化をきっかけとして身体と精神のアンバランスさや、勉学、就職、恋愛の悩みなど心理的・社会的な課題を多く抱え、葛藤と混乱の中で生

きていかなければならず、傷つきやすく影響を受けやすい不安定な立場に置かれている。そうした状況で、青年は、社会の中に自分自身の存在を置いて考えるようになり、自分自身の存在に疑問を強めながらも目を向け始める。また、青年期は生の目標や生きがいを問う時期であり、平山（1991）は、動揺の多いこの時期には、何らかの形で人生の意義や生の意味、死に対する関心を持つ者が多いと述べる。大学生が属する青年後期の死の捉え方は、身体的・認知的・社会的・情緒的な側面における緊張、曖昧さや脆弱性に影響されるという研究もあり、どのように生き、どのように死ぬかという問題に対し、不安定な中で直面していることが考えられる。そこで、若者、主に青年期や大学生を対象とした先行研究をいくつか概観してみたい。

死に対する心的態度に関する研究の中で、数多く取り上げられてきたのが死の不安・恐怖である。青年群と老年群の比較研究では、青年群のほうが死の不安を感じる人が多いこと（堀，1996）、より強い死の不安を感じること（富松・稲谷，2012）が指摘されている。また、死に対するイメージをSCTで尋ねた下仲（1980）の研究において、死を恐怖、悲哀、拒否感情で見ている反応が青年群に多くみられた。金児（1994）は、青年は死に触れる機会の少なさ故に、死への対処の仕方を知らず、死についてより不安・恐怖を抱く傾向にあると述べている。加えて、若者にとって死は差し迫った問題ではないけれども、死によって奪われるものがより多いが故の反応かもしれないとも述べている。

さらに、死の不安を感じやすい青年の特徴に関して、朝野・滝本・野原・野原（1988）の研究で、抑うつ性、劣等感、神経質が死の不安と正の相関を示すことが明らかにされている。青年期を対象に死生観及び関連要因を検討した赤澤・藤田（2007）の研究でも、死の不安と抑うつの正の相関が指摘されており、死に対する心的態度と性格特性との関連の検討が進められている。

また、過去に経験したライフイベントが死に対する心的態度に与える影響も検討されている。中でも、死別経験は人間にとって最もストレスフルな出来事であるといわれ（松下・尾方，2009）、身近な人の死が個人にどう経験され、主観的な生きる意味がどう変化していくかについて、死別体験をした者を対象に半構造化面接を実施した隈元（2003）の研究の結果、死別体験を経て死の受容や人格的発達などに至るプロセスでは、死のイメージの変容や、自分自身の生の意味の変化が体験されると考えられ、重要な他者との死別経験が死に対する態度を変容させる可能性が指摘されている。木村・広海（1990）は、父母・兄弟姉妹などの家族（祖父母は除く）との死別経験者群は、祖父母のみの死別経験者群よりも死の不安得点が有意に高かったと述べている。一方、祖父母のみの死別経験者群の不安得点は家族との死別経験のない群と同程度に低かった。しかし、死別体験の有無が死に対する態度に異なる影響を与えるかを検討した丹下（2004）の研究や、死別体験の有無と死のイメージ及び死に対する態度との関連について検討した松下ら（2009）の研究など、有意差や関連がみられなかったものもある。その結果を受け、丹下（2004）は、身近な人との死別体験の有無が故人の死に対する態度に明確な差をもたらすのは児童期までであり、

青年期以降は他の要因、例えばメディアを通しての死の体験や、生や死に関する個人の思索などが大きくなるため、死別体験の有無では有意な差が示されなくなるという可能性が考えられると述べた。また、死別体験の特徴は扱っていないという方法上の問題も指摘している。さらに、大学生における死生観形成の要因を検討した後藤（2016）の研究においては、死別体験をしている人のほうが死を肯定的に受容するという結果が示されているが、「大学生の死生観形成には死別体験の有無ではなく、死について考える経験が、青年期の死に対する態度を形作る一つの決定因である（倉田，2008）」ことに触れ、死別体験は死生観形成の一要因にすぎず、周りの環境なども大きな要因の一つであると考察している。これは、赤澤ら（2007）の研究で、死別体験による死生観の差異がみられたのは死への関心のみであり、死別体験が死生観のすべてを決定するようなものではないことを示唆していると述べたことにも一致する。

先行研究では死のイメージについても取り上げられており、看護学生と大学生の死生観形成要因を比較し、今後の死生観育成について検討することを目的とした糸島（2005）の調査では、看護学生は大学生に比べて死を「一般的な事実や事象」とイメージしている学生が多く、大学生は看護学生に比べて「悲しい」や「寂しい」などの感情表現をしている学生が多いという結果が得られている。なお、「自分自身の死」までイメージしている学生は、看護学生では26.7%、大学生では25.0%と両者間に差は見られず、この低さは死を取り巻く環境の変化の影響、つまり、伊藤（2007）が見出した、他者の死と自己の日常の乖離が伺える。齋藤・林・藤野（2002）は、大学生の死のイメージ5つ（「寂しい」、「怖い」、「苦しい」、「安らか」、「美しい」）と自我状態（TEG）、Self-Esteem（ローゼンバーグ自尊感情尺度）との関連を検討した。その結果、死のイメージとSelf-Esteemの関連として、「怖い」を1位に選択した群が2位以下に選択した群と比較してSelf-Esteem得点が有意に高く、「安らか」を3位以下に選択した群が1,2位に選択した群と比較してSelf-Esteem得点が有意に高かったという結果が得られており、自尊感情や自己評価が高いが故、自分自身の心身の喪失である死を肯定的に捉えることが困難で恐怖心を強く抱くと推察されている。

死への心的態度と性差に関する研究もいくつか見受けられ、李（1990）は、生、死、言葉、身体のイメージについて男女差を検討した。その結果、生に対しても死に対しても、男性は悲観的、一面的なイメージを抱きやすく、女性はより楽観的、両面的なイメージを抱きやすいことが示された。大学生の死生観形成における性差の研究として、赤澤ら（2007）は、女性のほうが男性よりも死を「解放としての死」として捉え、「死後の世界観」や「寿命観」を重視するという結果を示した。山下・橋本・高木（2006）の研究では、男性のほうが、孤独感が強いほど自殺に対して否定的な態度をとるという結果が示された。金児（1994）の研究では、死の不安は親世代より子世代のほうが、男性より女性のほうが高いことを明らかにした。しかし、未だ大学生の男女における死への心的態度の違いについて明確に記載している研究は数少ないのが現状である。

さらに、死への心的態度を測定する方法についても、様々な先行研究が見受けられる。死の不安を捉えるために、TemplerのDeath Anxiety Scale (DAS)を代表とする質問紙法が多く用いられてきた。また、死のイメージを捉える方法としては、連想語のKJ法による分類がある。石坂(2003)は、死の意味付けに関してKJ法を参考に回答を分類した結果、死の否定的意味づけである“ネガティブ”、肯定的意味づけである“ポジティブ”、死に対して肯定・否定の両価的な意味づけを意識している“アンビバレント”を見出しており、人生に根差した主題である死に対するイメージの分析は、単に「肯定的」・「否定的」というような形容詞対上の位置によってではなく、両価性、いわゆる「アンビバレント」をも把握できる形で行う必要があると考えられる。そのようなイメージ測定の有効な方法として、SD法が挙げられる。SD法には、一連の相反する形容詞対を用いるものと、単独形容詞を用いるものがあるが、単独形容詞SD法には、両極性の尺度上では中点に評価されていたものの内容をより明確にできる、どちらの形容詞にも当てはまるといふ様相を明らかにすることができるという利点があり、一つ概念に対してもつイメージの両価性を測定することができる(李, 1990)。

死がタブー視される傾向にありながらも、上記のように死に関する先行研究が数多く見受けられるのは、人間にとって死は非常に重要な主題であり、良く死ぬことは良く生き抜くことに他ならないからであろう。一方で、先行研究では、自分の死に対するイメージのみを問うものがほとんどである。フランスの哲学者Jankélévitch, V.は自身の著書で、死を、一人称(自身)の死、二人称(近親者)の死、三人称(他人)の死の3つに分類し、それぞれの違いを、「第三人称の無名性と第一人称の悲劇の主体性との間に、第二人称という、中間的といわば特権的な場合がある。遠くて関心をそそらぬ他者の死と、そのままわれわれの存在である自分自身の死との間に、近親の死という親近さが存在する」と考察した。また、大山(1994)が「自己の死と他者の死は相互に影響しあうものであることは否定できないが、他者の死は考えたり論じたりすることが可能な客観的なものであり、当事者にとっては相対的なものである。自己の死は主観的であり、当事者にとっては絶対的な意味を持つ。」と述べたように、自身の死に強い不安や恐怖を抱き、死が日常から乖離した青年期にとっては、一人称の死のみの視点で死を考えることは困難であると考えられる。死に対するイメージに関して、看護者を対象として自分の死と患者の死の検討を行った先行研究は見られても(田中・柳・水口・山田, 1998)、一人称の死、二人称の死、三人称の死に分類して調査した先行研究は見受けられないため、人称を分類して研究することは意義があることだと考える。

II 目的

以上に述べた問題意識に基づき、本研究では大学生を対象に、一人称の死・二人称の死・三人称の死に対するイメージを、両価性の把握に適した単独形容詞SD法を用いて調査し、それらの分類相互の位置づけを検討することを第一

の目的とした。さらに、回答者個人の特性を測定するための質問項目を用いて、性別やトラウマ経験の有無・詳細、不安特性、うつ特性、罪悪感特性といった個々人の特性を評価し、それらの特性が一人称の死・二人称の死・三人称の死に対するイメージに及ぼす影響についても探索的な検討を行うことを第二の目的とした。また、本研究が、大学生の死に対する心的態度の理解や、自殺対策、死生観教育の一助となることを期待する。

Ⅲ 方法

1) 手続き

対象者：私立大学の学生を対象に調査を行った結果、252名から回答が得られた。同意が得られなかったものや回答に欠損が見られたものなど22名を除いた230名(男性124名,女性106名)を分析対象者とした(有効回答率91.2%)。平均年齢は19.8歳であった。

調査時期と調査方法：2021年7月に、大学の講義時間を利用して質問紙による集団調査を行った。なお、本研究の趣旨と、倫理的配慮(プライバシーの保護、回答者の匿名性、回答拒否・中断の意思表示が可能であること)について、口頭および文書で十分に説明し、それら全てに同意の得られた学生にのみ調査を実施した。

2) 質問紙の構成

フェイスシート：性別・年齢・トラウマ経験の有無とその詳細(「種類」・「どなたが」・「時期」・「具体的内容」・「衝撃度」)を尋ねた。なお、本研究ではトラウマ体験を「死別・災害・事故・事件・怪我・病気などといった自分または他人に迫る危険を、自身が経験・目撃・直面したりし、自身の生命や存在に強い衝撃をもたらす経験」と定義し、質問紙に記載のうえ用いた。

回答者個人の特性を測定するための質問項目：①不安特性について、20項目を4件法(新版STAIの全40項目から、特性不安についての20項目を使用)で尋ねた。なお、得点が高いほど不安特性が高い。②うつ特性について、20項目を4件法(うつ自己評価尺度(CES-D)の全20項目から、4件法の問い方「この1週間のうちで「ない」・「1~2日」・「3~4日」・「5日以上」)を、他の特性の問い方と統一させるために、「ほとんどない」・「ときどきある」・「かなりある」・「ほとんどいつも」に変更して使用)で尋ねた。なお、得点が高いほどうつ特性が高い。③罪悪感特性について、8項目を4件法(特性罪悪感尺度(TGS)の全26項目の内、回答者の負担を軽減するために4つの下位尺度(利得過剰の罪悪感・屈折的甘えによる罪悪感・精神的罪悪感・関係維持のための罪悪感)から各2項目、計8項目を使用)で尋ねた。なお、得点が高いほど罪悪感特性が高い。

死に対するイメージを測定するための項目：単独形容詞SD法を用いて、「自身の死」・「近親者の死」・「他人の死」についてのイメージについて、12対24項目を4件法(「青年期における死の不安と「死」・「生」・「自己」のイ

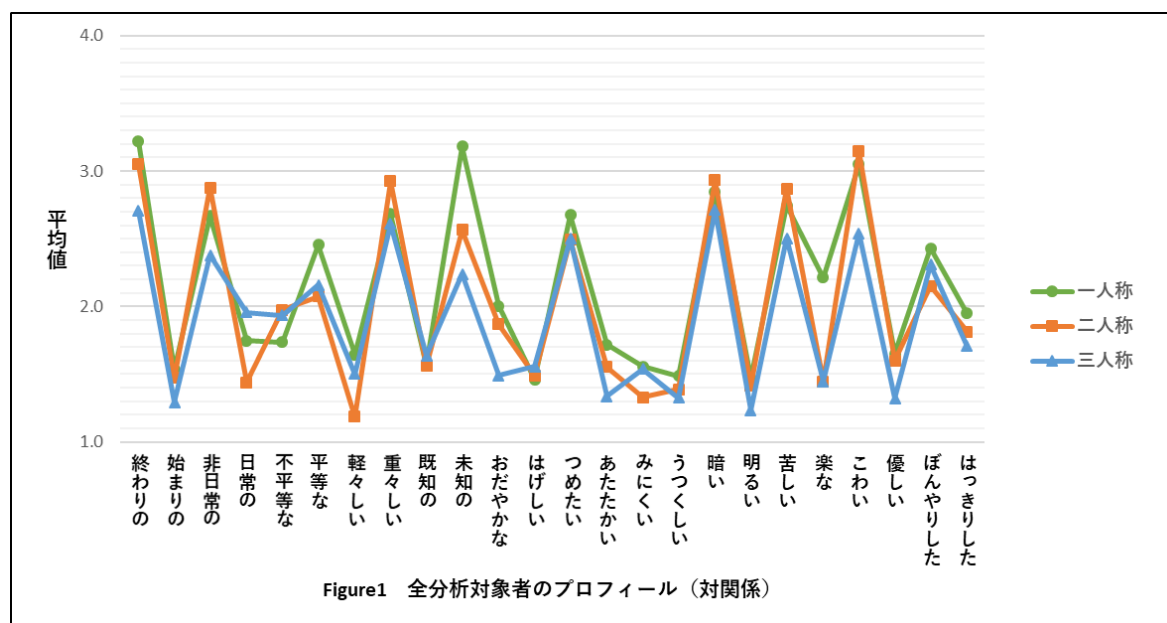
メージ-DAS と SD 法を用いて（松下・尾方，2007）」で用いられた 20 対 40 項目から、「死」のイメージに適さないと考えられる項目 8 対 16 項目（無限の／有限の・敵意に満ちた／愛に満ちた・疎遠な／親しい・不活発な／活動的な・浅い／深い・小さい／大きい・不完全な／完全な・矛盾した／一貫した）を除いて使用）で尋ねた。なお、本研究では、Jankélévitch, V.の考察から近親者を「家族・近しい親族・ごく親しい友人」と定義し、質問紙に記載のうえ用いた。

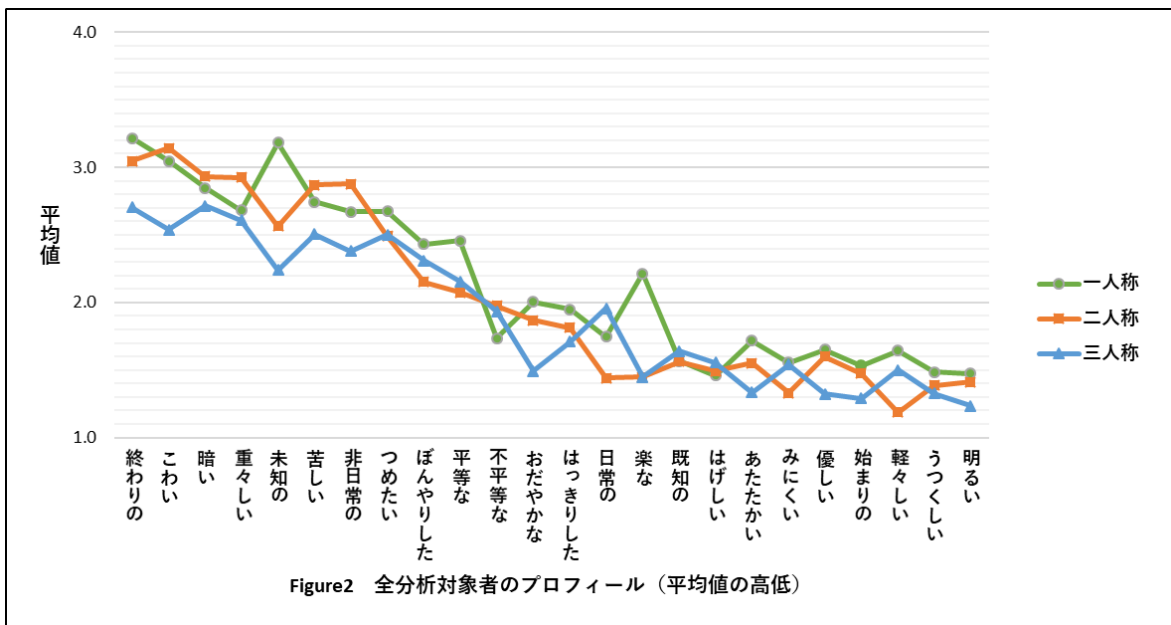
なお、4 件法の得点は全て、「当てはまらない」=1 点～「当てはまる」=4 点とした。

IV 結果

1) 一人称の死・二人称の死・三人称の死に対する単独形容詞 SD 法におけるイメージ

単独形容詞 SD 法の各 24 項目において、一人称の死・二人称の死・三人称の死に対する全分析対象者 230 名の平均値を算出し、プロフィールを作成した。そのうち、各項目を対関係順に並べたものが **Figure1** である。また、死を一人称の死・二人称の死・三人称の死に分類しなかった場合の単独形容詞 SD 法の各項目について、全分析対象者 230 名の平均値を算出すると、「終わりの」：3.0、「こわい」：2.9、「暗い」：2.8、「重々しい」：2.7、「未知の」：2.7、「苦しい」：2.7、「非日常の」：2.6、「つめたい」：2.6、「ぼんやりした」：2.3、「平等な」：2.2、「不平等な」：1.9、「おだやかな」：1.8、「はっきりした」：1.8、「日常の」：1.7、「楽な」：1.7、「既知の」：1.6、「はげしい」：1.5、「あたたかい」：1.5、「みにくい」：1.5、「優しい」：1.5、「始まりの」：1.4、「軽々しい」：1.4、「うつくしい」：1.4、「明るい」：1.4 であったため、各項目を平均値の高低順に並べたものが **Figure2** である。





一人称の死・二人称の死・三人称の死を独立変数とし、単独形容詞 SD 法の各 24 項目を従属変数として、繰り返しのある一元配置の分散分析を行い、さらに、主効果が見られた項目について下位検定 (Bonferroni 法) を行った結果を **Table 1** に示す。「終わりの」において、一人称の死は二人称の死・三人称の死より、二人称の死は三人称の死より単独形容詞 SD 法の得点の平均値が有意に高かった ($F(1.9, 434.1) = 22.4, p < .001, \eta^2 = .09$)。「こわい」において、一人称の死は三人称の死より、二人称の死は三人称の死より有意に高かった ($F(2, 458) = 31.3, p < .001, \eta^2 = .12$)。「暗い」において、二人称の死は三人称の死より有意に高かった ($F(2, 458) = 4.1, p < .05, \eta^2 = .02$)。「重々しい」において、一人称の死は二人称の死より有意に低く、二人称の死は三人称の死より有意に高かった ($F(2, 458) = 8.7, p < .001, \eta^2 = .04$)。「未知の」において、一人称の死は二人称の死・三人称の死より、二人称の死は三人称の死より有意に高かった ($F(2, 458) = 67.9, p < .001, \eta^2 = .23$)。「苦しい」において、一人称の死は三人称の死より、二人称の死は三人称の死より有意に高かった ($F(1.9, 437.1) = 9.6, p < .001, \eta^2 = .04$)。「非日常の」において、一人称の死は二人称の死より有意に低く、一人称の死は三人称の死より、二人称の死は三人称の死より有意に高かった ($F(2, 458) = 15.9, p < .001, \eta^2 = .07$)。「つめたい」において、一人称の死は二人称の死・三人称の死より有意に高い傾向があった ($F(2, 458) = 3.8, p < .05, \eta^2 = .02$)。「ぼんやりした」において、一人称の死は二人称の死より有意に高かった ($F(2, 458) = 5.9, p < .01, \eta^2 = .03$)。「平等な」において、一人称の死は二人称の死・三人称の死より有意に高かった ($F(2, 458) = 16.1, p < .001, \eta^2 = .07$)。「不平等な」において、一人称の死は二人称の死・三人称の死より有意に低かった ($F(1.9, 427.5) = 6.7, p < .01, \eta^2 = .03$)。「おだやかな」において、一人称の死は三人称の死より、

二人称の死は三人称の死より有意に高かった ($F(1.9, 445.3) = 30.4, p < .001, \eta^2 = .12$)。「はっきりした」において、一人称の死は三人称の死より、二人称の死は三人称の死より、有意に高かった ($F(2, 458) = 31.3, p < .001, \eta^2 = .12$)。「日常の」において、一人称の死は二人称の死より有意に高く、一人称の死は三人称の死より、二人称の死は三人称の死より有意に低かった ($F(1.9, 430.9) = 24.8, p < .001, \eta^2 = .10$)。「楽な」において、一人称の死は二人称の死・三人称の死より有意に高かった ($F(1.8, 406.2) = 73.4, p < .001, \eta^2 = .24$)。「あたたかい」において、一人称の死は二人称の死・三人称の死より、二人称の死は三人称の死より有意に高かった ($F(1.9, 445.2) = 20.1, p < .001, \eta^2 = .08$)。「みにくい」において、一人称の死は二人称の死より有意に高く、二人称の死は三人称の死より有意に低かった ($F(2.0, 448.1) = 10.2, p < .001, \eta^2 = .04$)。「優しい」において、一人称の死は三人称の死より、二人称の死は三人称の死より有意に高かった ($F(2, 458) = 21.1, p < .001, \eta^2 = .08$)。「始まるの」において、一人称の死は三人称の死より、二人称の死は三人称の死より有意に高かった ($F(2.0, 449.3) = 12.2, p < .001, \eta^2 = .05$)。「軽々しい」において、一人称の死は二人称の死より有意に高く、二人称の死は三人称の死より有意に低かった ($F(1.8, 422.8) = 29.9, p < .001, \eta^2 = .12$)。「うつくしい」において、一人称の死は三人称の死より有意に高かった ($F(2, 458) = 5.9, p < .01, \eta^2 = .03$)。「明るい」において、一人称の死は三人称の死より、二人称の死は三人称の死より有意に高かった ($F(2, 458) = 12.2, p < .001, \eta^2 = .05$)。「既知の」・「はげしい」においては、有意差は見られなかった。

Table1 一人称の死・二人称の死・三人称の死に対する単独形容詞SD法におけるイメージの分散分析結果

	一人称：①	二人称：②	三人称：③	F値/df	p/ η^2	下位検定
終わりの	平均値：3.22 SD：.960	平均値：3.05 SD：1.087	平均値：2.70 SD：1.186	22.358 1,896, 434.076	p<.001 .089	①>②*・③***, ②>③*** (p=.041・p=.000, p=.000)
こわい	平均値：3.05 SD：1.054	平均値：3.14 SD：1.016	平均値：2.54 SD：1.151	31.273 2, 458	p<.001 .120	①>③***, ②>③*** (p=.000, p=.000)
暗い	平均値：2.85 SD：1.069	平均値：2.93 SD：1.071	平均値：2.71 SD：1.104	4.112 2, 458	p<.05 .018	②>③* (p=.019)
重々しい	平均値：2.68 SD：1.069	平均値：2.93 SD：1.140	平均値：2.61 SD：1.103	8.699 2, 458	p<.001 .037	①<②**, ②>③*** (p=.006, p=.000)
未知の	平均値：3.18 SD：1.062	平均値：2.57 SD：1.209	平均値：2.24 SD：1.148	67.869 2, 458	p<.001 .229	①>②***・③***, ②>③*** (p=.000・p=.000, p=.000)
苦しい	平均値：2.74 SD：1.053	平均値：2.87 SD：1.122	平均値：2.50 SD：1.085	9.619 1,909, 437.087	p<.001 .040	①>③*, ②>③*** (p=.010, p=.000)
非日常の	平均値：2.67 SD：1.154	平均値：2.88 SD：1.176	平均値：2.38 SD：1.156	15.856 2, 458	p<.001 .065	①<②*, ①>③**, ②>③*** (p=.040, p=.005, p=.000)
つめたい	平均値：2.67 SD：1.087	平均値：2.49 SD：1.113	平均値：2.50 SD：1.144	3.796 2, 458	p<.05 .016	①>②†・③† (p=.060・p=.074)
ぼんやりした	平均値：2.43 SD：1.025	平均値：2.15 SD：1.089	平均値：2.31 SD：1.064	5.940 2, 458	p<.01 .025	①>②** (p=.002)
平等な	平均値：2.46 SD：1.104	平均値：2.07 SD：1.105	平均値：2.16 SD：1.216	16.051 2, 458	p<.001 .066	①>②***・③*** (p=.000・p=.000)
不平等な	平均値：1.73 SD：1.008	平均値：1.97 SD：1.090	平均値：1.93 SD：1.090	6.706 1,867, 427.504	p<.01 .028	①<②**・③** (p=.002・p=.004)
おだやかな	平均値：2.00 SD：1.026	平均値：1.87 SD：1.024	平均値：1.49 SD：.786	30.360 1,945, 445.343	p<.001 .117	①>③***, ②>③*** (p=.000, p=.000)
はっきりした	平均値：1.95 SD：1.044	平均値：1.81 SD：.987	平均値：1.71 SD：.914	6.450 2, 458	p<.01 .027	①>③** (p=.001)
日常の	平均値：1.75 SD：.952	平均値：1.44 SD：.772	平均値：1.96 SD：1.073	24.826 1,882, 430.948	p<.001 .098	①>②***, ①<③*, ②<③*** (p=.000・p=.024, p=.000)
楽な	平均値：2.21 SD：1.063	平均値：1.45 SD：.801	平均値：1.45 SD：.779	73.376 1,774, 406.231	p<.001 .243	①>②***・③*** (p=.000・p=.000)
既知の	平均値：1.57 SD：.800	平均値：1.56 SD：.848	平均値：1.64 SD：.969	1.089 1,938, 443.757	n.s .005	n.s
はげしい	平均値：1.46 SD：.690	平均値：1.49 SD：.746	平均値：1.56 SD：.817	1.401 2, 458	n.s .006	n.s
あたたかい	平均値：1.72 SD：.922	平均値：1.55 SD：.899	平均値：1.33 SD：.645	20.092 1,944, 445.196	p<.001 .081	①>②*・③***, ②>③*** (p=.037・p=.000, p=.000)
みにくい	平均値：1.56 SD：.761	平均値：1.33 SD：.670	平均値：1.54 SD：.849	10.164 1,957, 448.078	p<.001 .042	①>②***, ②<③*** (p=.000, p=.000)
優しい	平均値：1.65 SD：.836	平均値：1.60 SD：.890	平均値：1.32 SD：.606	21.108 2, 458	p<.001 .084	①>③***, ②>③*** (p=.000, p=.000)
始まりの	平均値：1.53 SD：.807	平均値：1.47 SD：.780	平均値：1.29 SD：.618	12.201 1,962, 449.349	p<.001 .051	①>③***, ②>③*** (p=.000, p=.000)
軽々しい	平均値：1.64 SD：.927	平均値：1.19 SD：.499	平均値：1.50 SD：.850	29.860 1,846, 422.810	p<.001 .115	①>②***, ②<③*** (p=.000, p=.000)
うつくしい	平均値：1.49 SD：.775	平均値：1.39 SD：.676	平均値：1.33 SD：.688	5.908 2, 458	p<.01 .025	①>③** (p=.001)
明るい	平均値：1.47 SD：.728	平均値：1.41 SD：.781	平均値：1.23 SD：.550	12.242 2, 458	p<.001 .051	①>③***, ②>③** (p=.000, p=.001)

(***)p<.001, (**p<.01, *p<.05, †p<.10)

2) 性差が一人称の死・二人称の死・三人称の死に対するイメージに及ぼす影響

性差を独立変数とし、一人称の死に対する単独形容詞 SD 法の各 24 項目を従属変数として、対応のない t 検定を行った結果を **Table2-1** に示す。

「こわい」において、男性は女性より単独形容詞 SD 法の得点の平均値が有意に低かった ($t(228) = .9, p < .05$)。「未知の」において、男性は女性より有意に低かった ($t(227.8) = 7.3, p < .01$)。「非日常の」において、男性は女性より有意に低かった ($t(227) = 4.1, p < .05$)。「はっきりした」において、男性は女性より有意に高かった ($t(226.8) = 11.8, p < .01$)。「軽々しい」において、男性は女性より有意に高かった ($t(227.6) = 6.7, p < .05$)。「うつくしい」において、男性は女性より有意に高かった ($t(214.9) = 19.1, p < .001$)。「終わりの」・「暗い」・「重々しい」・「苦しい」・「つめたい」・「ぼんやりした」・「平等な」・「不平等な」・「おだやかな」・「日常の」・「楽な」・「既知の」・「はげしい」・「あたたかい」・「みにくい」・「優しい」・「始まるの」・「明るい」においては、有意差は見られなかった。

性差を独立変数とし、二人称の死に対する単独形容詞 SD 法の各 24 項目を従属変数として、対応のない t 検定を行った結果を **Table2-2** に示す。

「平等な」において、男性は女性より単独形容詞 SD 法の得点の平均値が有意に高かった ($t(228) = 7.5, p < .01$)。「はっきりした」において、男性は女性より有意に高かった ($t(226.2) = 7.6, p < .01$)。「日常の」において、男性は女性より有意に高かった ($t(227.8) = 6.6, p < .05$)。「楽な」において、男性は女性より有意に高かった ($t(227.7) = 5.1, p < .05$)。「既知の」において、男性は女性より有意に高い傾向があった ($t(228) = 3.0, p < .10$)。「はげしい」において、男性は女性より有意に高かった ($t(227.9) = 6.2, p < .05$)。「みにくい」において、男性は女性より有意に高かった ($t(228.0) = 4.5, p < .05$)。「優しい」において、男性は女性より有意に高かった ($t(227.9) = 6.7, p < .05$)。「軽々しい」において、男性は女性より有意に高かった ($t(220.4) = 6.4, p < .05$)。「うつくしい」において、男性は女性より有意に高かった ($t(226.8) = 9.9, p < .01$)。「明るい」において、男性は女性より有意に高かった ($t(225.8) = 13.5, p < .001$)。「終わりの」・「こわい」・「暗い」・「重々しい」・「未知の」・「苦しい」・「非日常の」・「つめたい」・「ぼんやりした」・「不平等な」・「おだやかな」・「あたたかい」・「始まるの」においては、有意差は見られなかった。

性差を独立変数とし、三人称の死に対する単独形容詞 SD 法の各 24 項目を従属変数として、対応のない t 検定を行った結果を **Table2-3** に示す。

「終わりの」において、男性は女性より単独形容詞 SD 法の得点の平均値が有意に高かった ($t(215.6) = 4.7, p < .05$)。「おだやかな」において、男性は女性より有意に高かった ($t(227.6) = 10.4, p < .01$)。「はっきりした」におい

て、男性は女性より有意に高かった ($t(228.0) = 4.8, p < .05$)。「楽な」において、男性は女性より有意に高い傾向があった ($t(228) = 2.8, p < .10$)。「既知の」において、男性は女性より有意に高い傾向があった ($t(228) = 3.5, p < .10$)。「はげしい」において、男性は女性より有意に高い傾向があった ($t(228) = 3.2, p < .10$)。「あたたかい」において、男性は女性より有意に高かった ($t(194.9) = 27.2, p < .001$)。「みにくい」において、男性は女性より有意に高かった ($t(228.0) = 5.2, p < .05$)。「優しい」において、男性は女性より有意に高かった ($t(212.9) = 25.8, p < .001$)。「始まりの」において、男性は女性より有意に高かった ($t(223.6) = 12.0, p < .01$)。「うつくしい」において、男性は女性より有意に高かった ($t(193.8) = 41.8, p < .001$)。「明るい」において、男性は女性より有意に高かった ($t(221.7) = 10.2, p < .01$)。「こわい」・「暗い」・「重々しい」・「未知の」・「苦しい」・「非日常の」・「つめたい」・「ぼんやりした」・「平等な」・「不平等な」・「日常の」・「軽々しい」においては、有意差は見られなかった。

Table2-1 性差と一人称の死に対する単独形容詞SD法の各尺度項目におけるt検定結果

	男性	女性	t値/df	p	平均比較
終わりの	平均値：3.20 SD：.979	平均値：3.24 SD：.942	.009 228	n.s	n.s
こわい	平均値：2.91 SD：1.090	平均値：3.21 SD：.993	.924 228	p<.05	男性<女性* (p=.033)
暗い	平均値：2.80 SD：1.082	平均値：2.91 SD：1.056	1.216 228	n.s	n.s
重々しい	平均値：2.58 SD：1.083	平均値：2.80 SD：1.046	1.743 228	n.s	n.s
未知の	平均値：3.08 SD：1.145	平均値：3.30 SD：.948	7.274 227.781	p<.01	男性<女性** (p=.008)
苦しい	平均値：2.69 SD：1.085	平均値：2.81 SD：1.015	1.584 228	n.s	n.s
非日常の	平均値：2.52 SD：1.186	平均値：2.85 SD：1.094	4.088 227	p<.05	男性<女性* (p=.044)
つめたい	平均値：2.64 SD：1.114	平均値：2.72 SD：1.058	1.432 228	n.s	n.s
ぼんやりした	平均値：2.46 SD：1.055	平均値：2.40 SD：.992	.947 228	n.s	n.s
平等な	平均値：2.40 SD：1.104	平均値：2.52 SD：1.106	.001 228	n.s	n.s
不平等な	平均値：1.73 SD：1.031	平均値：1.75 SD：.986	.762 228	n.s	n.s
おだやかな	平均値：2.10 SD：1.085	平均値：1.90 SD：.945	1.641 228	n.s	n.s
はっきりした	平均値：2.17 SD：1.117	平均値：1.69 SD：.888	11.843 226.841	p<.01	男性>女性** (p=.001)
日常の	平均値：1.86 SD：.982	平均値：1.61 SD：.900	2.247 228	n.s	n.s
楽な	平均値：2.19 SD：1.057	平均値：2.24 SD：1.074	.595 228	n.s	n.s
既知の	平均値：1.61 SD：.824	平均値：1.51 SD：.771	.705 228	n.s	n.s
はげしい	平均値：1.50 SD：.738	平均値：1.42 SD：.630	1.798 228	n.s	n.s
あたたかい	平均値：1.72 SD：.924	平均値：1.72 SD：.923	.002 228	n.s	n.s
みにくい	平均値：1.56 SD：.758	平均値：1.56 SD：.769	.067 228	n.s	n.s
優しい	平均値：1.73 SD：.884	平均値：1.56 SD：.769	2.141 228	n.s	n.s
始まりの	平均値：1.57 SD：.808	平均値：1.49 SD：.808	.081 228	n.s	n.s
軽々しい	平均値：1.76 SD：.999	平均値：1.51 SD：.819	6.671 227.629	p<.05	男性>女性* (p=.010)
うつくしい	平均値：1.60 SD：.892	平均値：1.36 SD：.589	19.077 214.914	p<.001	男性>女性*** (p=.000)
明るい	平均値：1.48 SD：.770	平均値：1.46 SD：.679	1.522 228	n.s	n.s

(***)p<.001, **p<.01, *p<.05, †p<.10)

Table2-2 性差と二人称の死に対する単独形容詞SD法の各尺度項目におけるt検定結果

	男性	女性	t値/df	p	平均比較
終わりの	平均値：3.15 SD：1.026	平均値：2.93 SD：1.149	2.637 228	n.s	n.s
こわい	平均値：3.06 SD：1.010	平均値：3.24 SD：1.019	.076 228	n.s	n.s
暗い	平均値：2.86 SD：1.077	平均値：3.01 SD：1.065	.305 228	n.s	n.s
重々しい	平均値：2.91 SD：1.126	平均値：2.94 SD：1.162	.628 228	n.s	n.s
未知の	平均値：2.47 SD：1.206	平均値：2.68 SD：1.207	.125 228	n.s	n.s
苦しい	平均値：2.78 SD：1.130	平均値：2.97 SD：1.108	.460 228	n.s	n.s
非日常の	平均値：2.84 SD：1.150	平均値：2.92 SD：1.209	.782 228	n.s	n.s
つめたい	平均値：2.50 SD：1.130	平均値：2.48 SD：1.097	.268 228	n.s	n.s
ぼんやりした	平均値：2.12 SD：1.116	平均値：2.19 SD：1.061	1.477 228	n.s	n.s
平等な	平均値：2.22 SD：1.166	平均値：1.91 SD：1.010	7.500 228	p<.01	男性>女性** (p=.007)
不平等な	平均値：1.88 SD：1.033	平均値：2.08 SD：1.147	2.590 228	n.s	n.s
おだやかな	平均値：1.94 SD：1.065	平均値：1.79 SD：.973	1.832 228	n.s	n.s
はっきりした	平均値：1.99 SD：1.071	平均値：1.60 SD：.836	7.566 226.213	p<.01	男性>女性** (p=.006)
日常の	平均値：1.52 SD：.831	平均値：1.35 SD：.691	6.606 227.828	p<.05	男性>女性* (p=.011)
楽な	平均値：1.52 SD：.841	平均値：1.36 SD：.746	5.112 227.679	p<.05	男性>女性* (p=.025)
既知の	平均値：1.60 SD：.909	平均値：1.51 SD：.771	2.981 228	p<.10	男性>女性† (p=.086)
はげしい	平均値：1.57 SD：.788	平均値：1.40 SD：.686	6.246 227.922	p<.05	男性>女性* (p=.013)
あたたかい	平均値：1.60 SD：.909	平均値：1.49 SD：.886	1.202 228	n.s	n.s
みにくい	平均値：1.38 SD：.717	平均値：1.27 SD：.610	4.465 227.997	p<.05	男性>女性* (p=.036)
優しい	平均値：1.71 SD：.952	平均値：1.47 SD：.795	6.745 227.885	p<.05	男性>女性* (p=.010)
始まりの	平均値：1.51 SD：.801	平均値：1.43 SD：.756	.959 228	n.s	n.s
軽々しい	平均値：1.23 SD：.568	平均値：1.14 SD：.401	6.434 220.444	p<.05	男性>女性* (p=.012)
うつくしい	平均値：1.47 SD：.737	平均値：1.29 SD：.585	9.936 226.788	p<.01	男性>女性** (p=.002)
明るい	平均値：1.51 SD：.860	平均値：1.30 SD：.664	13.469 225.774	p<.001	男性>女性*** (p=.000)

(***)p<.001, **p<.01, *p<.05, †p<.10)

Table2-3 性差と三人称の死に対する単独形容詞SD法の各尺度項目におけるt検定結果

	男性	女性	t値/df	p	平均比較
終わりの	平均値：2.81 SD：1.136	平均値：2.58 SD：1.234	4.694 215.632	p<.05	男性>女性* (p=.031)
こわい	平均値：2.51 SD：1.137	平均値：2.58 SD：1.171	.303 228	n.s	n.s
暗い	平均値：2.64 SD：1.092	平均値：2.80 SD：1.116	.013 228	n.s	n.s
重々しい	平均値：2.60 SD：1.066	平均値：2.62 SD：1.150	1.814 228	n.s	n.s
未知の	平均値：2.19 SD：1.164	平均値：2.30 SD：1.131	.130 228	n.s	n.s
苦しい	平均値：2.53 SD：1.070	平均値：2.47 SD：1.106	.405 228	n.s	n.s
非日常の	平均値：2.38 SD：1.159	平均値：2.38 SD：1.158	.001 228	n.s	n.s
つめたい	平均値：2.55 SD：1.136	平均値：2.44 SD：1.155	.198 228	n.s	n.s
ぼんやりした	平均値：2.19 SD：1.095	平均値：2.44 SD：1.015	.946 228	n.s	n.s
平等な	平均値：2.18 SD：1.197	平均値：2.13 SD：1.243	.917 228	n.s	n.s
不平等な	平均値：1.86 SD：1.062	平均値：2.02 SD：1.121	.361 228	n.s	n.s
おだやかな	平均値：1.61 SD：.843	平均値：1.35 SD：.691	10.386 227.607	p<.01	男性>女性** (p=.001)
はっきりした	平均値：1.83 SD：.969	平均値：1.57 SD：.828	4.794 228.000	p<.05	男性>女性* (p=.030)
日常の	平均値：1.94 SD：1.046	平均値：1.97 SD：1.108	.767 228	n.s	n.s
楽な	平均値：1.48 SD：.841	平均値：1.42 SD：.702	2.824 228	p<.10	男性>女性† (p=.094)
既知の	平均値：1.72 SD：1.017	平均値：1.55 SD：.906	3.490 228	p<.10	男性>女性† (p=.063)
はげしい	平均値：1.59 SD：.874	平均値：1.52 SD：.746	3.196 228	p<.10	男性>女性† (p=.075)
あたたかい	平均値：1.43 SD：.777	平均値：1.23 SD：.420	27.177 194.856	p<.001	男性>女性*** (p=.000)
みにくい	平均値：1.62 SD：.907	平均値：1.44 SD：.769	5.172 227.989	p<.05	男性>女性* (p=.024)
優しい	平均値：1.42 SD：.700	平均値：1.21 SD：.452	25.821 212.933	p<.001	男性>女性*** (p=.000)
始まりの	平均値：1.36 SD：.691	平均値：1.21 SD：.511	12.018 223.591	p<.01	男性>女性** (p=.001)
軽々しい	平均値：1.52 SD：.879	平均値：1.47 SD：.819	.416 228	n.s	n.s
うつくしい	平均値：1.47 SD：.821	平均値：1.16 SD：.439	41.836 193.781	p<.001	男性>女性*** (p=.000)
明るい	平均値：1.29 SD：.622	平均値：1.17 SD：.447	10.169 221.685	p<.01	男性>女性** (p=.002)

(***)p<.001, **p<.01, *p<.05, †p<.10)

3) トラウマ経験の有無が一人称の死・二人称の死・三人称の死に対するイメージに及ぼす影響

トラウマ経験について、有り群 47 名（男性 28 名，女性 19 名，個数 60），無し群 183 名であり，有り群は全体の 2 割にとどまった。有の詳細について，「種類」の内訳は死別：19，災害：2，事故：17，事件：2，けが：5，病気：8，その他：7（いじめ：3，不審者：1，対人関係：1，高校時代が思い出せない（不登校）：1，遭難：1）であった。「どなたが」の内訳は，自分・私・自身が・自身・本人：31，祖父・祖母・曾祖母・おじ：14，父親・父・母親・母：7，級友・同級生・親友・友達：4，自分と友人：1，他人・他人（おばあさん）：2，？：1であった。また，上述したものに加えて，「時期」，「具体的内容」，「衝撃度」をそれぞれ Table3-1, 3-2 に示す。なお，衝撃度の平均は 6.95/10 であった。

Table3-1 ト라우マ経験有の詳細

ケース	性別	年齢	トラウマ経験				
			種類	どなたが	時期	具体的内容	衝撃度
①	男	22	病気	祖父	75歳	病気での死別	9/10
			病気	祖母	75歳	がん	9/10
			病気	自分	5歳	喘息で入院を数回	7/10
②	男	21	事故	自分	15歳	車との接触事故	8/10
③	女	22	死別	級友	10歳	肺炎で亡くなった	8/10
④	女	20	死別	父親	?歳	離婚して10何年も会っていなかったが， 変死で見つかった	10/10
⑤	女	21	死別	祖父	20歳	コロナ禍で最後に会えなかった	8/10
⑥	男	21	病気	私	?歳	腸がストレスで破れてたのに無理に我慢してたせいで 敗血症寸前，その後腹膜炎で苦しんだ	10/10
⑦	女	21	事件	自分	15歳	レイプ	10/10
⑧	女	20	事故	私	17歳	自転車で走行中，車とぶつかった	5/10
			死別	私	7歳	祖父が亡くなった	9/10
⑨	女	20	事故	自分	8歳	プールで溺れかけた	5/10
⑩	男	19	いじめ	自分	12~15歳	何もしてないけど，テスト前に机に 落書きされたり，無視されたりしたこと。	6/10
⑪	男	20	事件	母親	13歳	自殺しようとした	9/10
⑫	男	20	死別	祖母	5歳	亡くなった	10/10
			事故	自分	10歳	車に乗っている時に後ろから車にぶつかられた	8/10
⑬	女	19	死別	祖父	18歳	癌で病院で亡くなった。手を握っていた	10/10
			災害	?	7歳	祖母の家が水害で1階全て水でやられた。母が泣いた	8/10
⑭	女	19	死別	曾祖母	7歳	とても好きだった曾祖母の死と， そのときのいとこの言葉	7/10
⑮	女	21	死別	同級生	11歳	病気	4/10
			事故	父	8歳	バイク事故	6/10
			不審者	自分	6歳	母が近くにいて見ていない時に自転車に乗った人に手を 引っ張られかけてあと少しで連れていかれるところだった	9/10
⑯	女	21	対人関係	自分	14歳	中学の担任の発言により， 一緒の空間で息を吸うことが無理になる	10/10
⑰	女	20	けが	自分	18歳	骨折	10/10
⑱	男	22	死別	祖父	21歳		4/10

Table3-2 ト라우マ経験有の詳細

⑲	女	20	いじめ	自分	16歳	訳もなく自分を批判され、バカにされ、自分の存在自体を笑いものにされた	7/10
			病気	父	15歳	父がアルコール依存症で、祭りの途中でどこかへ走り出してしまったり色々あった	4/10
			死別	父	18歳	長い入院生活の末、死亡した	3/10
⑳	男	23	いじめ	自分	9歳	学校で親しかった友人ほぼ全員と弟にいじめられた	7/10
			高校時代が思い出せない(不登校)	自分	17歳	高校時代の記憶がほとんどない。母校の通学路等ゆかりのあるところを通るときは、体調が崩れる。	9/10
㉑	男	20	けが	自分	10歳	自転車から落ちて頭を9針縫った	1/10
㉒	男	20	事故	私	15歳	車と接触	5/10
㉓	男	19	死別	親友	18歳	持病の悪化により	10/10
㉔	男	20	死別	祖父	11歳	病気で亡くなる	4/10
㉕	男	21	事故	自分	19歳	自分がバイク乗って横から車が来てぶつかった	5/10
㉖	男	20	病気	私	12歳	生まれた時から患っているてんかんの発作が来るタイミング	10/10
㉗	男	19	災害	自分	19歳	キッチンで火事を起こしてしまった	4/10
㉘	男	20	事故	自分	6歳	トラックに轢かれかけた	0/10
㉙	男	19	病気	本人	10歳	O-157	10/10
㉚	女	19	事故	自分	19歳	軽トラが横から突っ込んできた	7/10
㉛	男	19	事故	私	17歳	海で溺れる	8/10
㉜	男	19	死別	父	7歳	自殺	10/10
㉝	男	20	けが	自分	9歳	跳び箱で靭帯の損傷	6/10
㉞	女	20	事故	自身が	17歳	自転車で下校途中に車と接触した	4/10
㉟	男	19	死別	祖母	10歳	病気で亡くなった	5/10
㊱	女	19	死別	友達	14歳	その友達が亡くなった後から他のお葬式に参列するとどんどん息が吸いづらくなりずっと会場にいたことができなくなりました。	7/10
㊲	女	21	死別	おじ	12歳		8/10
㊳	男	20	けが	自身	15歳	脳震盪	7/10
㊴	男	20	事故	自分	18歳	信号無視をしてきた車に轢かれかけた	6/10
			遭難	自分と友人	18歳	登山中に遭難した	6/10
㊵	男	19	死別	曾祖母	7歳	寿命による衰弱によって死亡した	4/10
㊶	女	20	死別	祖母	13歳	病気	8/10
㊷	男	20	死別	祖父	19歳	病死	10/10
㊸	男	20	事故	他人(おばあさん)	18歳	バスに人がはねられた	4/10
			事故	他人	19歳	バイクと自動車の事故	3/10
㊹	男	20	けが	自分	18歳	膝を怪我をした	8/10
㊺	男	21	事故	母	5~6歳		10/10
			事故	自分	14歳	自転車乗ってたら横から車	3/10
㊻	女	20	病気	自分	18歳	電車で突然吐き気や冷や汗が止まらなくなり、そのときは胃腸炎だったがそれから数ヶ月は電車に乗ると同じような症状が生じて、しばらくは電車に乗れなかった	6/10
㊼	女	19	死別	祖母	18歳	人が死にゆく姿をつめたくなくて目を目の当たりにした	9/10

トラウマ経験の有無を独立変数とし、一人称の死に対する単独形容詞 SD 法の各 24 項目を従属変数として、対応のない t 検定を行った結果を Table3-3 に示す。

「終わりの」において、トラウマ経験有りは無しより単独形容詞 SD 法の得点の平均値が有意に高かった ($t(92.4) = 5.4, p < .01$)。「おだやかな」において、有りは無しより有意に高かった ($t(65.6) = 3.9, p < .05$)。「はっきりした」において、有りは無しより有意に高かった ($t(62.3) = 9.6, p < .01$)。「始まりの」において、有りは無しより有意に低かった ($t(104.8) = 8.0, p < .01$)。「軽々しい」において、有りは無しより有意に高かった ($t(60.2) = 8.0, p < .01$)。「うつくしい」において、有りは無しより有意に高かった ($t(61.3) = 9.1, p < .01$)。

「こわい」・「暗い」・「重々しい」・「未知の」・「苦しい」・「非日常の」・「つめたい」・「ぼんやりした」・「平等な」・「不平等な」・「日常の」・「楽な」・「既知の」・「はげしい」・「あたたかい」・「みにくい」・「優しい」・「明るい」においては、有意差は見られなかった。

トラウマ経験の有無を独立変数とし、二人称の死に対する単独形容詞 SD 法の各 24 項目を従属変数として、対応のない t 検定を行った結果を **Table3-4** に示す。

「つめたい」において、トラウマ経験有りは無しより単独形容詞 SD 法の得点の平均値が有意に高い傾向があった ($t(228)=2.8, p<.10$)。「はっきりした」において、有りは無しより有意に高かった ($t(60.8)=13.0, p<.001$)。「既知の」において、有りは無しより有意に高かった ($t(60.4)=7.2, p<.01$)。「軽々しい」において、有りは無しより有意に高かった ($t(57.9)=7.1, p<.01$)。「うつくしい」において、有りは無しより有意に高かった ($t(60.2)=7.4, p<.01$)。「終わりの」・「こわい」・「暗い」・「重々しい」・「未知の」・「苦しい」・「非日常の」・「ぼんやりした」・「平等な」・「不平等な」・「おだやかな」・「日常の」・「楽な」・「はげしい」・「あたたかい」・「みにくい」・「優しい」・「始まりの」・「明るい」においては、有意差は見られなかった。

トラウマ経験の有無を独立変数とし、三人称の死に対する単独形容詞 SD 法の各 24 項目を従属変数として、対応のない t 検定を行った結果を **Table3-5** に示す。

「おだやかな」において、トラウマ経験有りは無しより単独形容詞 SD 法の得点の平均値が有意に高かった ($t(62.6)=4.3, p<.05$)。「はっきりした」において、有りは無しより有意に高かった ($t(58.1)=18.4, p<.001$)。「みにくい」において、有りは無しより有意に高かった ($t(63.0)=5.3, p<.05$)。「始まりの」において、有りは無しより有意に高い傾向があった ($t(228)=3.5, p<.10$)。「軽々しい」において、有りは無しより有意に高かった ($t(60.1)=8.8, p<.01$)。「うつくしい」において、有りは無しより有意に高い傾向があった ($t(228)=3.5, p<.10$)。「終わりの」・「こわい」・「暗い」・「重々しい」・「未知の」・「苦しい」・「非日常の」・「つめたい」・「ぼんやりした」・「平等な」・「不平等な」・「日常の」・「楽な」・「既知の」・「はげしい」・「あたたかい」・「優しい」・「明るい」においては、有意差は見られなかった。

Table3-3 ト라우マ経験の有無と一人称の死に対する単独形容詞SD法の各尺度項目におけるt検定結果

	トラウマ経験有り：有	トラウマ経験無し：無	t値/df	p	平均比較
終わりの	平均値：3.57 SD：.744	平均値：3.13 SD：.989	5.353 92.390	p<.01	有>無** (p=.001)
こわい	平均値：2.94 SD：1.111	平均値：3.08 SD：1.040	1.702 228	n.s	n.s
暗い	平均値：2.94 SD：1.071	平均値：2.83 SD：1.070	.036 228	n.s	n.s
重々しい	平均値：2.87 SD：1.076	平均値：2.63 SD：1.065	.108 228	n.s	n.s
未知の	平均値：3.38 SD：.922	平均値：3.13 SD：1.092	2.508 228	n.s	n.s
苦しい	平均値：2.81 SD：1.096	平均値：2.73 SD：1.044	.275 228.00	n.s	n.s
非日常の	平均値：2.98 SD：1.113	平均値：2.59 SD：1.154	1.572 228	n.s	n.s
つめたい	平均値：2.81 SD：1.076	平均値：2.64 SD：1.090	.307 228	n.s	n.s
ぼんやりした	平均値：2.57 SD：1.058	平均値：2.39 SD：1.015	.066 228	n.s	n.s
平等な	平均値：2.55 SD：1.176	平均値：2.43 SD：1.087	1.184 228	n.s	n.s
不平等な	平均値：1.70 SD：1.082	平均値：1.74 SD：.992	.916 228	n.s	n.s
おだやかな	平均値：2.17 SD：1.129	平均値：1.96 SD：.997	3.910 65.584	p<.05	有>無* (p=.049)
はっきりした	平均値：2.55 SD：1.176	平均値：1.79 SD：.950	9.577 62.254	p<.01	有>無** (p=.002)
日常の	平均値：1.91 SD：.974	平均値：1.70 SD：.944	.012 228	n.s	n.s
楽な	平均値：2.36 SD：1.112	平均値：2.17 SD：1.049	.583 228.00	n.s	n.s
既知の	平均値：1.55 SD：.855	平均値：1.57 SD：.788	.350 228	n.s	n.s
はげしい	平均値：1.53 SD：.718	平均値：1.44 SD：.684	.018 228	n.s	n.s
あたたかい	平均値：1.68 SD：.911	平均値：1.73 SD：.927	.003 228	n.s	n.s
みにくい	平均値：1.45 SD：.686	平均値：1.58 SD：.779	1.701 228	n.s	n.s
優しい	平均値：1.72 SD：.877	平均値：1.63 SD：.827	.206 228	n.s	n.s
始まりの	平均値：1.38 SD：.573	平均値：1.57 SD：.854	8.019 104.829	p<.01	有<無** (p=.005)
軽々しい	平均値：2.00 SD：1.123	平均値：1.55 SD：.849	7.954 60.179	p<.01	有>無** (p=.005)
うつくしい	平均値：1.74 SD：.920	平均値：1.42 SD：.721	9.063 61.269	p<.01	有>無** (p=.003)
明るい	平均値：1.49 SD：.655	平均値：1.47 SD：.747	.263 228	n.s	n.s

(***)p<.001, **p<.01, *p<.05, †p<.10)

Table3-4 ト라우マ経験の有無と二人称の死に対する単独形容詞SD法の各尺度項目におけるt検定結果

	トラウマ経験有り：有	トラウマ経験無し：無	t値/df	p	平均比較
終わりの	平均値：3.32 SD：.980	平均値：2.98 SD：1.104	1.180 228	n.s	n.s
こわい	平均値：3.28 SD：.852	平均値：3.11 SD：1.053	2.046 228	n.s	n.s
暗い	平均値：3.02 SD：.989	平均値：2.91 SD：1.093	1.429 228	n.s	n.s
重々しい	平均値：3.21 SD：1.082	平均値：2.85 SD：1.146	.371 228	n.s	n.s
未知の	平均値：2.40 SD：1.228	平均値：2.61 SD：1.204	.054 228	n.s	n.s
苦しい	平均値：2.77 SD：1.183	平均値：2.90 SD：1.107	1.103 228.00	n.s	n.s
非日常の	平均値：3.04 SD：1.141	平均値：2.84 SD：1.184	.782 228	n.s	n.s
つめたい	平均値：2.81 SD：1.227	平均値：2.41 SD：1.070	2.843 228	p<.10	有>無† (p=.093)
ぼんやりした	平均値：2.47 SD：1.120	平均値：2.07 SD：1.069	.965 228	n.s	n.s
平等な	平均値：2.26 SD：1.151	平均値：2.03 SD：1.092	1.227 228	n.s	n.s
不平等な	平均値：2.06 SD：1.131	平均値：1.95 SD：1.081	1.355 228	n.s	n.s
おだやかな	平均値：2.06 SD：1.150	平均値：1.82 SD：.986	2.709 228	n.s	n.s
はっきりした	平均値：2.26 SD：1.170	平均値：1.70 SD：.903	13.024 60.807	p<.001	有>無*** (p=.000)
日常の	平均値：1.47 SD：.776	平均値：1.43 SD：.774	.101 228	n.s	n.s
楽な	平均値：1.40 SD：.825	平均値：1.46 SD：.796	.252 228	n.s	n.s
既知の	平均値：1.72 SD：1.036	平均値：1.52 SD：.790	7.241 60.428	p<.01	有>無** (p=.008)
はげしい	平均値：1.57 SD：.744	平均値：1.47 SD：.747	.019 228	n.s	n.s
あたたかい	平均値：1.57 SD：.927	平均値：1.55 SD：.894	.169 228	n.s	n.s
みにくい	平均値：1.38 SD：.768	平均値：1.32 SD：.645	1.403 228	n.s	n.s
優しい	平均値：1.60 SD：.876	平均値：1.60 SD：.895	.068 228	n.s	n.s
始まりの	平均値：1.62 SD：.848	平均値：1.44 SD：.760	.803 228	n.s	n.s
軽々しい	平均値：1.28 SD：.649	平均値：1.16 SD：.451	7.089 57.895	p<.01	有>無** (p=.008)
うつくしい	平均値：1.53 SD：.830	平均値：1.35 SD：.627	7.405 60.153	p<.01	有>無** (p=.007)
明るい	平均値：1.45 SD：.880	平均値：1.40 SD：.756	.837 228	n.s	n.s

(***p<.001, **p<.01, *p<.05, †p<.10)

Table3-5 ト라우マ経験の有無と三人称の死に対する単独形容詞SD法の各尺度項目におけるt検定結果

	トラウマ経験有り：有	トラウマ経験無し：無	t値/df	p	平均比較
終わりの	平均値：3.00 SD：1.198	平均値：2.63 SD：1.174	.796 228	n.s	n.s
こわい	平均値：2.77 SD：1.165	平均値：2.48 SD：1.143	.022 228	n.s	n.s
暗い	平均値：2.98 SD：1.073	平均値：2.64 SD：1.104	1.792 228	n.s	n.s
重々しい	平均値：2.96 SD：1.062	平均値：2.52 SD：1.099	1.591 228	n.s	n.s
未知の	平均値：2.15 SD：1.142	平均値：2.26 SD：1.152	.352 228	n.s	n.s
苦しい	平均値：2.66 SD：1.109	平均値：2.46 SD：1.078	.002 228	n.s	n.s
非日常の	平均値：2.34 SD：1.166	平均値：2.39 SD：1.157	.003 228	n.s	n.s
つめたい	平均値：2.81 SD：1.096	平均値：2.42 SD：1.145	2.393 228	n.s	n.s
ぼんやりした	平均値：2.32 SD：1.144	平均値：2.31 SD：1.045	1.437 228	n.s	n.s
平等な	平均値：2.49 SD：1.266	平均値：2.07 SD：1.191	2.231 228	n.s	n.s
不平等な	平均値：1.96 SD：1.122	平均値：1.93 SD：1.085	.472 228	n.s	n.s
おだやかな	平均値：1.66 SD：.915	平均値：1.45 SD：.746	4.263 62.562	p<.05	有>無* (p=.040)
はっきりした	平均値：2.26 SD：1.132	平均値：1.57 SD：.795	18.353 58.144	p<.001	有>無*** (p=.000)
日常の	平均値：2.13 SD：1.154	平均値：1.91 SD：1.050	2.001 228	n.s	n.s
楽な	平均値：1.60 SD：.901	平均値：1.41 SD：.742	2.537 228.00	n.s	n.s
既知の	平均値：1.77 SD：1.047	平均値：1.61 SD：.948	1.375 228	n.s	n.s
はげしい	平均値：1.64 SD：.895	平均値：1.54 SD：.797	.818 228	n.s	n.s
あたたかい	平均値：1.40 SD：.742	平均値：1.32 SD：.618	1.805 228	n.s	n.s
みにくい	平均値：1.66 SD：.984	平均値：1.51 SD：.811	5.287 62.966	p<.05	有>無* (p=.022)
優しい	平均値：1.38 SD：.677	平均値：1.31 SD：.588	1.580 228	n.s	n.s
始まりの	平均値：1.36 SD：.764	平均値：1.27 SD：.576	3.496 228	p<.10	有>無† (p=.063)
軽々しい	平均値：1.68 SD：1.045	平均値：1.45 SD：.789	8.817 60.143	p<.01	有>無** (p=.003)
うつくしい	平均値：1.43 SD：.801	平均値：1.30 SD：.657	3.527 228	p<.10	有>無† (p=.062)
明るい	平均値：1.21 SD：.587	平均値：1.24 SD：.542	.172 228	n.s	n.s

(***)p<.001, **p<.01, *p<.05, †p<.10)

4) 不安特性が一人称の死・二人称の死・三人称の死に対するイメージに及ぼす影響

不安特性を独立変数とし、一人称の死に対する単独形容詞 SD 法の各 24 項目を従属変数として、繰り返しのない一元配置の分散分析を行い、さらに、主効果が見られた項目について、Levene の等分散性の検定の結果、等分散が等しい場合は Bonferroni 法を、等分散が等しくない場合は Dunnett 法を選択し下位検定を行った結果を **Table4-1** に示す。

「こわい」において、不安特性低群は中群・高群より有意に低かった ($F(2, 227) = 5.2, p < .01, \eta^2 = .04$)。「暗い」において、低群は中群・高群より有意に低かった ($F(2, 227) = 7.5, p < .01, \eta^2 = .06$)。「重々しい」において、低群は高群より有意に低かった ($F(2, 227) = 3.7, p < .05, \eta^2 = .03$)。「苦しい」において、低群は中群・高群より有意に低かった ($F(2, 227) = 15.2, p < .001, \eta^2 = .12$)。「つめたい」において、低群は中群・高群より有意に低かった ($F(2, 227) = 8.9, p < .001, \eta^2 = .07$)。「はげしい」において、低群は高群より有意に低かった ($F(2, 227) = 3.2, p < .05, \eta^2 = .03$)。「みにくい」において、低群は中群・高群より有意に低かった ($F(2, 227) = 4.2, p < .05, \eta^2 = .04$)。「優しい」において、低群は中群より有意に低かった ($F(2, 227) = 3.0, p < .10, \eta^2 = .03$)。「終わりの」・「未知の」・「非日常の」・「ぼんやりした」・「平等な」・「不平等な」・「おだやかな」・「はっきりした」・「日常の」・「楽な」・「既知の」・「あたたかい」・「始まりの」・「軽々しい」・「うつくしい」・「明るい」においては、有意差は見られなかった。

不安特性を独立変数とし、二人称の死に対する単独形容詞 SD 法の各 24 項目を従属変数として、繰り返しのない一元配置の分散分析を行い、さらに、主効果が見られた項目について、Levene の等分散性の検定の結果、等分散が等しい場合は Bonferroni 法を、等分散が等しくない場合は Dunnett 法を選択し下位検定を行った結果を **Table4-2** に示す。

「暗い」において、不安特性低群は高群より有意に低かった ($F(2, 227) = 3.1, p < .05, \eta^2 = .03$)。「ぼんやりした」において、低群は高群より有意に低い傾向があった ($F(2, 227) = 2.4, p < .10, \eta^2 = .02$)。「不平等な」において、低群は高群より有意に低かった ($F(2, 227) = 3.0, p < .10, \eta^2 = .03$)。「終わりの」・「こわい」・「重々しい」・「未知の」・「苦しい」・「非日常の」・「つめたい」・「平等な」・「おだやかな」・「はっきりした」・「日常の」・「楽な」・「既知の」・「はげしい」・「あたたかい」・「みにくい」・「優しい」・「始まりの」・「軽々しい」・「うつくしい」・「明るい」においては、有意差は見られなかった。

不安特性を独立変数とし、三人称の死に対する単独形容詞 SD 法の各 24 項目を従属変数として、繰り返しのない一元配置の分散分析を行い、さらに、主効果が見られた項目について、Levene の等分散性の検定の結果、等分散が等しい

場合は Bonferroni 法を，等分散が等しくない場合は Dunnett 法を選択し下位検定を行った結果を **Table4-3** に示す。

「こわい」において，不安特性低群は中群より有意に低かった ($F(2, 227) = 6.3, p < .01, \eta^2 = .05$)。「暗い」において，低群は中群より有意に低かった ($F(2, 227) = 3.9, p < .05, \eta^2 = .03$)。「重々しい」において，低群は中群より有意に低い傾向があった ($F(2, 227) = 3.1, p < .05, \eta^2 = .03$)。「苦しい」において，低群は中群より有意に低かった ($F(2, 227) = 3.1, p < .05, \eta^2 = .03$)。「つめたい」において，低群は高群より有意に低かった ($F(2, 227) = 3.2, p < .05, \eta^2 = .03$)。「不平等な」において，低群は中群・高群より有意に低い傾向があった ($F(2, 227) = 3.4, p < .05, \eta^2 = .03$)。「日常の」において，低群は高群より有意に低かった ($F(2, 227) = 3.8, p < .05, \eta^2 = .03$)。「既知の」において，低群は中群・高群より有意に低かった ($F(2, 227) = 4.4, p < .05, \eta^2 = .04$)。「はげしい」において，低群は中群より有意に低かった ($F(2, 227) = 3.0, p < .10, \eta^2 = .03$)。「終わりの」・「未知の」・「非日常の」・「ぼんやりした」・「平等な」・「不平等な」・「おだやかな」・「はっきりした」・「楽な」・「あたたかい」・「みにくい」・「優しい」・「始まりの」・「軽々しい」・「うつくしい」・「明るい」においては，有意差は見られなかった。

Table4-1 不安特性と一人称の死に対する単独形容詞SD法の各尺度項目における分散分析結果

	不安特性 高群：高	不安特性 中群：中	不安特性 低群：低	F値/df	p/η ²	下位検定
終わりの	平均値：3.41 SD：.851	平均値：3.17 SD：.935	平均値：3.07 SD：1.100	2.207 2, 227	n.s .019	n.s
こわい	平均値：3.16 SD：1.002	平均値：3.18 SD：.998	平均値：2.67 SD：1.139	5.140 2, 227	p<.01 .043	低<中**・高* (p=.008・p=.025)
暗い	平均値：3.13 SD：.945	平均値：2.90 SD：1.055	平均値：2.42 SD：1.117	7.452 2, 227	p<.01 .062	低<中*・高** (p=.018・p)
重々しい	平均値：2.87 SD：1.021	平均値：2.73 SD：1.085	平均値：2.37 SD：1.046	3.681 2, 227	p<.05 .031	低<高* (p=.027)
未知の	平均値：3.09 SD：1.116	平均値：3.29 SD：1.016	平均値：3.11 SD：1.080	.914 2, 227	n.s .008	n.s
苦しい	平均値：3.09 SD：1.004	平均値：2.85 SD：.988	平均値：2.14 SD：.990	15.184 2, 227	p<.001 .118	低<中***・高*** (p=.000・p=.000)
非日常の	平均値：2.75 SD：1.111	平均値：2.64 SD：1.178	平均値：2.63 SD：1.175	.234 2, 227	n.s .002	n.s
つめたい	平均値：3.06 SD：.944	平均値：2.65 SD：1.083	平均値：2.26 SD：1.110	8.945 2, 227	p<.001 .073	低<高*, 中<高* (p<.05, p<.05)
ぼんやりした	平均値：2.40 SD：.995	平均値：2.54 SD：1.010	平均値：2.26 SD：1.078	1.433 2, 227	n.s .012	n.s
平等な	平均値：2.44 SD：1.164	平均値：2.55 SD：1.092	平均値：2.30 SD：1.052	.988 2, 227	n.s .009	n.s
不平等な	平均値：1.99 SD：1.113	平均値：1.67 SD：.977	平均値：1.56 SD：.887	3.243 2, 227	p<.05 .028	n.s
おだやかな	平均値：1.94 SD：1.020	平均値：2.03 SD：1.014	平均値：2.04 SD：1.068	.182 2, 227	n.s .002	n.s
はっきりした	平均値：2.04 SD：1.085	平均値：1.94 SD：1.008	平均値：1.84 SD：1.066	.581 2, 227	n.s .005	n.s
日常の	平均値：1.76 SD：1.009	平均値：1.82 SD：.969	平均値：1.60 SD：.842	1.026 2, 227	n.s .009	n.s
楽な	平均値：2.28 SD：1.104	平均値：2.20 SD：1.051	平均値：2.16 SD：1.049	.216 2, 227	n.s .002	n.s
既知の	平均値：1.66 SD：.908	平均値：1.61 SD：.791	平均値：1.37 SD：.645	2.411 2, 227	p<.10 .021	n.s
はげしい	平均値：1.59 SD：.777	平均値：1.48 SD：.708	平均値：1.28 SD：.491	3.184 2, 227	p<.05 .027	低<高* (p<.05)
あたたかい	平均値：1.71 SD：.915	平均値：1.76 SD：.925	平均値：1.65 SD：.935	.282 2, 227	n.s .002	n.s
みにくい	平均値：1.69 SD：.797	平均値：1.60 SD：.792	平均値：1.32 SD：.602	4.197 2, 227	p<.05 .036	低<中*・高* (p<.05・p<.05)
優しい	平均値：1.65 SD：.787	平均値：1.77 SD：.891	平均値：1.44 SD：.756	2.978 2, 227	p<.10 .026	低<中* (p=.046)
始まりの	平均値：1.46 SD：.721	平均値：1.63 SD：.912	平均値：1.46 SD：.683	1.308 2, 227	n.s .011	n.s
軽々しい	平均値：1.87 SD：1.006	平均値：1.56 SD：.876	平均値：1.53 SD：.889	2.898 2, 227	p<.10 .025	n.s
うつくしい	平均値：1.49 SD：.763	平均値：1.49 SD：.748	平均値：1.49 SD：.848	.001 2, 227	n.s .000	n.s
明るい	平均値：1.44 SD：.741	平均値：1.56 SD：.784	平均値：1.35 SD：.582	1.660 2, 227	n.s .014	n.s

(***)p<.001, (**p<.01, *p<.05, †p<.10)

Levene 5%以下

Table4-2 不安特性と二人称の死に対する単独形容詞SD法の各尺度項目における分散分析結果

	不安特性 高群：高	不安特性 中群：中	不安特性 低群：低	F値/df	p/η ²	下位検定
終わりの	平均値：3.16 SD：1.101	平均値：3.01 SD：1.079	平均値：2.98 SD：1.094	.540 2, 227	n.s .005	n.s
こわい	平均値：3.22 SD：.990	平均値：3.10 SD：1.046	平均値：3.12 SD：1.001	.282 2, 227	n.s .002	n.s
暗い	平均値：3.12 SD：1.044	平均値：2.96 SD：1.037	平均値：2.65 SD：1.126	3.104 2, 227	p<.05 .027	低<高* (p=.044)
重々しい	平均値：3.01 SD：1.126	平均値：2.90 SD：1.123	平均値：2.86 SD：1.202	.319 2, 227	n.s .003	n.s
未知の	平均値：2.63 SD：1.221	平均値：2.64 SD：1.202	平均値：2.35 SD：1.203	1.194 2, 227	n.s .010	n.s
苦しい	平均値：2.81 SD：1.096	平均値：2.97 SD：1.113	平均値：2.75 SD：1.169	.832 2, 227	n.s .007	n.s
非日常の	平均値：3.03 SD：1.233	平均値：2.88 SD：1.141	平均値：2.70 SD：1.164	1.206 2, 227	n.s .011	n.s
つめたい	平均値：2.63 SD：1.105	平均値：2.50 SD：1.102	平均値：2.30 SD：1.133	1.417 2, 227	n.s .012	n.s
ぼんやりした	平均値：2.34 SD：1.060	平均値：2.16 SD：1.084	平均値：1.91 SD：1.106	2.408 2, 227	p<.10 .021	低<高† (p=.088)
平等な	平均値：2.03 SD：1.022	平均値：2.14 SD：1.130	平均値：2.00 SD：1.165	.385 2, 227	n.s .003	n.s
不平等な	平均値：2.21 SD：1.166	平均値：1.95 SD：1.078	平均値：1.74 SD：.973	2.961 2, 227	p<.10 .025	低<高* (p=.049)
おだやかな	平均値：1.85 SD：1.069	平均値：1.98 SD：1.019	平均値：1.68 SD：.967	1.572 2, 227	n.s .014	n.s
はっきりした	平均値：1.79 SD：.986	平均値：1.90 SD：.986	平均値：1.67 SD：.988	1.094 2, 227	n.s .010	n.s
日常の	平均値：1.44 SD：.799	平均値：1.50 SD：.810	平均値：1.32 SD：.659	1.107 2, 227	n.s .010	n.s
楽な	平均値：1.51 SD：.872	平均値：1.48 SD：.833	平均値：1.32 SD：.631	1.078 2, 227	n.s .009	n.s
既知の	平均値：1.59 SD：.885	平均値：1.63 SD：.869	平均値：1.40 SD：.753	1.356 2, 227	n.s .012	n.s
はげしい	平均値：1.49 SD：.782	平均値：1.56 SD：.759	平均値：1.37 SD：.672	1.248 2, 227	n.s .011	n.s
あたたかい	平均値：1.54 SD：.953	平均値：1.65 SD：.909	平均値：1.39 SD：.796	1.578 2, 227	n.s .014	n.s
みにくい	平均値：1.40 SD：.736	平均値：1.35 SD：.693	平均値：1.21 SD：.526	1.308 2, 227	n.s .011	n.s
優しい	平均値：1.60 SD：.933	平均値：1.69 SD：.902	平均値：1.44 SD：.802	1.432 2, 227	n.s .012	n.s
始まりの	平均値：1.37 SD：.710	平均値：1.59 SD：.829	平均値：1.39 SD：.750	2.188 2, 227	n.s .019	n.s
軽々しい	平均値：1.25 SD：.608	平均値：1.18 SD：.476	平均値：1.12 SD：.381	1.023 2, 227	n.s .009	n.s
うつくしい	平均値：1.40 SD：.626	平均値：1.41 SD：.703	平均値：1.33 SD：.690	.244 2, 227	n.s .002	n.s
明るい	平均値：1.34 SD：.704	平均値：1.50 SD：.822	平均値：1.33 SD：.787	1.336 2, 227	n.s .012	n.s

(***)p<.001, **p<.01, *p<.05, †p<.10)

Levene 5%以下

Table4-3 不安特性と三人称の死に対する単独形容詞SD法の各尺度項目における分散分析結果

	不安特性 高群：高	不安特性 中群：中	不安特性 低群：低	F値/df	p/η ²	下位検定
終わりの	平均値：2.94 SD：1.170	平均値：2.60 SD：1.182	平均値：2.61 SD：1.192	1.945 2, 227	n.s .017	n.s
こわい	平均値：2.49 SD：1.178	平均値：2.79 SD：1.107	平均値：2.14 SD：1.093	6.280 2, 227	p<.01 .052	低<中** (p=.002)
暗い	平均値：2.78 SD：1.104	平均値：2.86 SD：1.078	平均値：2.37 SD：1.096	3.891 2, 227	p<.05 .033	低<中* (p=.021)
重々しい	平均値：2.69 SD：1.149	平均値：2.72 SD：1.061	平均値：2.30 SD：1.085	3.072 2, 227	p<.05 .026	低<中† (p=.057)
未知の	平均値：2.32 SD：1.177	平均値：2.34 SD：1.142	平均値：1.95 SD：1.093	2.485 2, 227	p<.10 .021	n.s
苦しい	平均値：2.53 SD：1.043	平均値：2.65 SD：1.083	平均値：2.21 SD：1.098	3.080 2, 227	p<.05 .026	低<中* (p=.043)
非日常の	平均値：2.21 SD：1.127	平均値：2.48 SD：1.161	平均値：2.40 SD：1.178	1.148 2, 227	n.s .010	n.s
つめたい	平均値：2.72 SD：1.118	平均値：2.51 SD：1.161	平均値：2.21 SD：1.098	3.158 2, 227	p<.05 .027	低<高* (p=.039)
ぼんやりした	平均値：2.35 SD：1.076	平均値：2.40 SD：1.034	平均値：2.09 SD：1.090	1.686 2, 227	n.s .015	n.s
平等な	平均値：2.21 SD：1.276	平均値：2.23 SD：1.211	平均値：1.96 SD：1.149	.948 2, 227	n.s .008	n.s
不平等な	平均値：2.06 SD：1.131	平均値：2.03 SD：1.122	平均値：1.61 SD：.921	3.366 2, 227	p<.05 .029	低<中†・高† (p=.061・p)
おだやかな	平均値：1.50 SD：.801	平均値：1.45 SD：.734	平均値：1.56 SD：.866	.391 2, 227	n.s .003	n.s
はっきりした	平均値：1.82 SD：1.036	平均値：1.70 SD：.856	平均値：1.60 SD：.863	.976 2, 227	n.s .009	n.s
日常の	平均値：2.19 SD：1.149	平均値：1.96 SD：1.037	平均値：1.67 SD：.988	3.799 2, 227	p<.05 .032	低<高* (p=.019)
楽な	平均値：1.54 SD：.836	平均値：1.47 SD：.809	平均値：1.30 SD：.626	1.611 2, 227	n.s .014	n.s
既知の	平均値：1.78 SD：1.034	平均値：1.72 SD：1.033	平均値：1.32 SD：.659	4.414 2, 227	p<.05 .037	低<中*・高* (p<.05・p<.05)
はげしい	平均値：1.51 SD：.763	平均値：1.69 SD：.902	平均値：1.37 SD：.672	2.964 2, 227	p<.10 .025	低<中* (p<.05)
あたたかい	平均値：1.32 SD：.609	平均値：1.37 SD：.654	平均値：1.28 SD：.675	.378 2, 227	n.s .003	n.s
みにくい	平均値：1.63 SD：.896	平均値：1.52 SD：.856	平均値：1.46 SD：.781	.697 2, 227	n.s .006	n.s
優しい	平均値：1.31 SD：.652	平均値：1.36 SD：.622	平均値：1.26 SD：.518	.510 2, 227	n.s .004	n.s
始まりの	平均値：1.19 SD：.465	平均値：1.38 SD：.712	平均値：1.25 SD：.576	2.175 2, 227	n.s .019	n.s
軽々しい	平均値：1.57 SD：.919	平均値：1.53 SD：.878	平均値：1.35 SD：.694	1.214 2, 227	n.s .011	n.s
うつくしい	平均値：1.31 SD：.629	平均値：1.36 SD：.735	平均値：1.28 SD：.675	.286 2, 227	n.s .003	n.s
明るい	平均値：1.22 SD：.569	平均値：1.27 SD：.559	平均値：1.19 SD：.515	.361 2, 227	n.s .003	n.s

(***)p<.001, **p<.01, *p<.05, †p<.10)

Levene 5%以下

5) うつ特性が一人称の死・二人称の死・三人称の死に対するイメージに及ぼす影響

うつ特性を独立変数とし、一人称の死に対する単独形容詞 SD 法の各 24 項目を従属変数として、繰り返しのない一元配置の分散分析を行い、さらに、主効果が見られた項目について、Levene の等分散性の検定の結果、等分散が等しい場合は Bonferroni 法を、等分散が等しくない場合は Dunnett 法を選択し下位検定を行った結果を **Table5-1** に示す。

「こわい」において、うつ特性低群は中群より有意に低い傾向があった ($F(2, 227) = 2.8, p < .10, \eta^2 = .02$)。「暗い」において、低群は高群より有意に低かった ($F(2, 227) = 3.7, p < .05, \eta^2 = .03$)。「苦しい」において、低群は中群・高群より有意に低かった ($F(2, 227) = 8.6, p < .001, \eta^2 = .07$)。「つめたい」において、低群は中群・高群より有意に低かった ($F(2, 227) = 9.1, p < .001, \eta^2 = .07$)。「不平等な」において、低群は高群より有意に低かった ($F(2, 227) = 6.2, p < .01, \eta^2 = .05$)。「あたたかい」において、中群は高群より有意に高かった ($F(2, 227) = 4.1, p < .05, \eta^2 = .04$)。「みにくい」において、低群は中群・高群より有意に低かった ($F(2, 227) = 5.0, p < .01, \eta^2 = .04$)。「優しい」において、低群は中群より有意に低かった ($F(2, 227) = 4.8, p < .01, \eta^2 = .04$)。「軽々しい」において、低群は中群・高群より有意に低かった ($F(2, 227) = 5.3, p < .01, \eta^2 = .04$)。「終わりの」・「重々しい」・「未知の」・「非日常の」・「ぼんやりした」・「平等な」・「不平等な」・「おだやかな」・「はっきりした」・「日常の」・「楽な」・「既知の」・「はげしい」・「始まりの」・「うつくしい」・「明るい」においては、有意差は見られなかった。

うつ特性を独立変数とし、二人称の死に対する単独形容詞 SD 法の各 24 項目を従属変数として、繰り返しのない一元配置の分散分析を行い、さらに、主効果が見られた項目について、Levene の等分散性の検定の結果、等分散が等しい場合は Bonferroni 法を、等分散が等しくない場合は Dunnett 法を選択し下位検定を行った結果を **Table5-2** に示す。

「苦しい」において、うつ特性低群は高群より有意に高い傾向があった ($F(2, 227) = 2.5, p < .10, \eta^2 = .02$)。「ぼんやりした」において、低群は高群より有意に低い傾向があった ($F(2, 227) = 2.4, p < .10, \eta^2 = .02$)。「不平等な」において、低群は中群・高群より有意に低かった ($F(2, 227) = 5.1, p < .01, \eta^2 = .04$)。「日常の」において、低群は中群・高群より有意に低かった ($F(2, 227) = 3.8, p < .05, \eta^2 = .03$)。「楽な」において、低群は中群より有意に低かった ($F(2, 227) = 3.3, p < .05, \eta^2 = .03$)。「優しい」において、低群は中群より有意に低かった ($F(2, 227) = 3.6, p < .05, \eta^2 = .03$)。「うつくしい」において、低群は中群・高群より有意に低かった ($F(2, 227) = 4.3, p < .05, \eta^2 = .04$)。「終わりの」・「こわい」・「暗い」・「重々しい」・「未知の」・「非日常の」・「つめたい」・「平等な」・「おだやかな」・「はっきりした」・「既知の」・「はげしい」・「あたたかい」・「みにくい」・「始まりの」・

「軽々しい」・「明るい」においては、有意差は見られなかった。

うつ特性を独立変数とし、三人称の死に対する単独形容詞 SD 法の各 24 項目を従属変数として、繰り返しのない一元配置の分散分析を行い、さらに、主効果が見られた項目について、Levene の等分散性の検定の結果、等分散が等しい場合は Bonferroni 法を、等分散が等しくない場合は Dunnett 法を選択し下位検定を行った結果を **Table5-3** に示す。

「こわい」において、うつ特性低群は中群より有意に低かった ($F(2, 227) = 3.8, p < .05, \eta^2 = .03$)。「重々しい」において、低群は高群より有意に低かった ($F(2, 227) = 3.5, p < .05, \eta^2 = .03$)。「不平等な」において、低群は中群・高群より有意に低かった ($F(2, 227) = 7.6, p < .01, \eta^2 = .06$)。「日常の」において、低群は高群より有意に低い傾向があった ($F(2, 227) = 2.5, p < .10, \eta^2 = .02$)。「終わりの」・「暗い」・「未知の」・「苦しい」・「非日常の」・「つめたい」・「ぼんやりした」・「平等な」・「おだやかな」・「はっきりした」・「楽な」・「既知の」・「はげしい」・「あたたかい」・「みにくい」・「優しい」・「始まりの」・「軽々しい」・「うつくしい」・「明るい」においては、有意差は見られなかった。

Table5-1 うつ特性と一人称の死に対する単独形容詞SD法の各尺度項目における分散分析結果

	うつ特性 高群：高	うつ特性 中群：中	うつ特性 低群：低	F値/df	p/ η^2	下位検定
終わりの	平均値：3.27 SD：.963	平均値：3.30 SD：.849	平均値：3.02 SD：1.122	1.765 2, 227	n.s .015	n.s
こわい	平均値：3.03 SD：1.069	平均値：3.20 SD：.985	平均値：2.80 SD：1.126	2.787 2, 227	p<.10 .024	低<中† (p=.058)
暗い	平均値：3.09 SD：.971	平均値：2.85 SD：1.062	平均値：2.58 SD：1.133	3.682 2, 227	p<.05 .031	低<高* (p=.022)
重々しい	平均値：2.86 SD：1.006	平均値：2.68 SD：1.078	平均値：2.49 SD：1.104	1.830 2, 227	n.s .016	n.s
未知の	平均値：2.95 SD：1.201	平均値：3.36 SD：.914	平均値：3.12 SD：1.115	.3067 2, 227	p<.05 .026	n.s
苦しい	平均値：2.95 SD：1.045	平均値：2.88 SD：1.007	平均値：2.27 SD：1.014	8.623 2, 227	p<.001 .071	低<中**・高** (p=.001・p=.001)
非日常の	平均値：2.52 SD：1.155	平均値：2.84 SD：1.117	平均値：2.53 SD：1.194	2.236 2, 227	n.s .019	n.s
つめたい	平均値：2.95 SD：1.061	平均値：2.78 SD：1.003	平均値：2.19 SD：1.121	9.118 2, 227	p<.001 .074	低<中**・高*** (p=.002・p)
ぼんやりした	平均値：2.55 SD：.942	平均値：2.44 SD：1.030	平均値：2.29 SD：1.099	.986 2, 227	n.s .009	n.s
平等な	平均値：2.41 SD：1.178	平均値：2.56 SD：1.048	平均値：2.32 SD：1.121	.981 2, 227	n.s .009	n.s
不平等な	平均値：2.05 SD：1.174	平均値：1.72 SD：.960	平均値：1.42 SD：.792	6.150 2, 227	p<.01 .051	低<高* (p<.05)
おだやかな	平均値：1.89 SD：.961	平均値：2.04 SD：1.027	平均値：2.07 SD：1.096	.559 2, 227	n.s .005	n.s
はっきりした	平均値：1.94 SD：1.037	平均値：1.98 SD：1.046	平均値：1.90 SD：1.062	.124 2, 227	n.s .001	n.s
日常の	平均値：1.86 SD：1.021	平均値：1.81 SD：.963	平均値：1.51 SD：.817	2.593 2, 227	p<.10 .022	n.s
楽な	平均値：2.39 SD：1.136	平均値：2.18 SD：.998	平均値：2.08 SD：1.087	1.388 2, 227	n.s .012	n.s
既知の	平均値：1.53 SD：.755	平均値：1.62 SD：.865	平均値：1.51 SD：.728	.427 2, 227	n.s .004	n.s
はげしい	平均値：1.55 SD：.711	平均値：1.51 SD：.705	平均値：1.27 SD：.611	3.096 2, 227	p<.05 .027	n.s
あたたかい	平均値：1.47 SD：.642	平均値：1.88 SD：.988	平均値：1.69 SD：1.004	4.086 2, 227	p<.05 .035	中>高* (p<.05)
みにくい	平均値：1.72 SD：.863	平均値：1.60 SD：.738	平均値：1.31 SD：.623	4.998 2, 227	p<.01 .042	低<中*・高* (p<.05・p<.05)
優しい	平均値：1.58 SD：.662	平均値：1.82 SD：.920	平均値：1.42 SD：.792	4.825 2, 227	p<.01 .041	低<中* (p<.05)
始まりの	平均値：1.52 SD：.797	平均値：1.58 SD：.825	平均値：1.47 SD：.796	.344 2, 227	n.s .003	n.s
軽々しい	平均値：1.83 SD：.985	平均値：1.71 SD：.962	平均値：1.32 SD：.706	5.286 2, 227	p<.01 .044	低<中*・高* (p<.05・p<.05)
うつくしい	平均値：1.53 SD：.816	平均値：1.52 SD：.757	平均値：1.37 SD：.763	.861 2, 227	n.s .008	n.s
明るい	平均値：1.48 SD：.734	平均値：1.55 SD：.730	平均値：1.32 SD：.706	1.912 2, 227	n.s .017	n.s

(**p<.001, **p<.01, *p<.05, †p<.10)

Levene 5%以下

Table5-2 うつ特性と二人称の死に対する単独形容詞SD法の各尺度項目における分散分析結果

	うつ特性 高群：高	うつ特性 中群：中	うつ特性 低群：低	F値/df	p/ η^2	下位検定
終わりの	平均値：3.20 SD：1.086	平均値：2.97 SD：1.059	平均値：3.02 SD：1.137	.937 2, 227	n.s .008	n.s
こわい	平均値：3.09 SD：1.050	平均値：3.16 SD：.992	平均値：3.17 SD：1.036	.108 2, 227	n.s .001	n.s
暗い	平均値：3.08 SD：1.013	平均値：2.95 SD：1.059	平均値：2.73 SD：1.142	1.687 2, 227	n.s .015	n.s
重々しい	平均値：2.86 SD：1.067	平均値：2.97 SD：1.137	平均値：2.92 SD：1.236	.197 2, 227	n.s .002	n.s
未知の	平均値：2.61 SD：1.255	平均値：2.69 SD：1.177	平均値：2.29 SD：1.190	2.201 2, 227	n.s .019	n.s
苦しい	平均値：2.63 SD：1.091	平均値：2.91 SD：1.129	平均値：3.07 SD：1.112	2.535 2, 227	p<.10 .022	低>高† (p=.086)
非日常の	平均値：2.88 SD：1.189	平均値：2.94 SD：1.156	平均値：2.76 SD：1.208	.450 2, 227	n.s .004	n.s
つめたい	平均値：2.58 SD：1.138	平均値：2.52 SD：1.031	平均値：2.34 SD：1.226	.791 2, 227	n.s .007	n.s
ぼんやりした	平均値：2.38 SD：1.091	平均値：2.13 SD：1.056	平均値：1.95 SD：1.121	2.414 2, 227	p<.10 .021	低<高† (p=.091)
平等な	平均値：2.03 SD：1.083	平均値：2.05 SD：1.050	平均値：2.17 SD：1.234	.299 2, 227	n.s .003	n.s
不平等な	平均値：2.20 SD：1.184	平均値：2.04 SD：1.063	平均値：1.61 SD：.947	5.059 2, 227	p<.01 .043	低<中*・高* (p<.05・p<.05)
おだやかな	平均値：1.94 SD：1.082	平均値：1.93 SD：1.040	平均値：1.68 SD：.918	1.394 2, 227	n.s .012	n.s
はっきりした	平均値：1.84 SD：1.011	平均値：1.80 SD：.966	平均値：1.80 SD：1.013	.044 2, 227	n.s .000	n.s
日常の	平均値：1.55 SD：.890	平均値：1.50 SD：.769	平均値：1.20 SD：.581	3.849 2, 227	p<.05 .033	低<中*・高* (p<.05・p<.05)
楽な	平均値：1.50 SD：.816	平均値：1.54 SD：.883	平均値：1.22 SD：.559	3.323 2, 227	p<.05 .028	低<中* (p<.05)
既知の	平均値：1.48 SD：.797	平均値：1.65 SD：.891	平均値：1.47 SD：.817	1.216 2, 227	n.s .011	n.s
はげしい	平均値：1.45 SD：.711	平均値：1.54 SD：.780	平均値：1.44 SD：.726	.465 2, 227	n.s .004	n.s
あたたかい	平均値：1.50 SD：.891	平均値：1.66 SD：.951	平均値：1.41 SD：.790	1.713 2, 227	n.s .015	n.s
みにくい	平均値：1.25 SD：.535	平均値：1.45 SD：.755	平均値：1.20 SD：.610	3.246 2, 227	p<.05 .028	n.s
優しい	平均値：1.66 SD：.912	平均値：1.71 SD：.942	平均値：1.34 SD：.710	3.569 2, 227	p<.05 .030	低<中* (p<.05)
始まりの	平均値：1.41 SD：.729	平均値：1.55 SD：.792	平均値：1.41 SD：.812	.987 2, 227	n.s .009	n.s
軽々しい	平均値：1.25 SD：.535	平均値：1.21 SD：.562	平均値：1.08 SD：.281	1.839 2, 227	n.s .016	n.s
うつくしい	平均値：1.48 SD：.734	平均値：1.45 SD：.717	平均値：1.17 SD：.461	4.285 2, 227	p<.05 .036	低<中*・高* (p<.05・p<.05)
明るい	平均値：1.44 SD：.814	平均値：1.49 SD：.805	平均値：1.25 SD：.685	1.728 2, 227	n.s .015	n.s

(**p<.001, **p<.01, *p<.05, †p<.10)

Levene 5%以下

Table5-3 うつ特性と三人称の死に対する単独形容詞SD法の各尺度項目における分散分析結果

	うつ特性 高群：高	うつ特性 中群：中	うつ特性 低群：低	F値/df	p/ η^2	下位検定
終わりの	平均値：2.94 SD：1.167	平均値：2.64 SD：1.152	平均値：2.58 SD：1.248	1.774 2, 227	n.s .015	n.s
こわい	平均値：2.56 SD：1.180	平均値：2.71 SD：1.116	平均値：2.20 SD：1.126	3.800 2, 227	p<.05 .032	低<中* (p=.019)
暗い	平均値：2.77 SD：1.109	平均値：2.79 SD：1.053	平均値：2.51 SD：1.180	1.381 2, 227	n.s .012	n.s
重々しい	平均値：2.55 SD：1.208	平均値：2.79 SD：1.007	平均値：2.34 SD：1.108	3.451 2, 227	p<.05 .030	低<高* (p<.05)
未知の	平均値：2.37 SD：1.175	平均値：2.31 SD：1.136	平均値：1.97 SD：1.114	2.338 2, 227	p<.10 .020	n.s
苦しい	平均値：2.48 SD：1.098	平均値：2.61 SD：1.007	平均値：2.34 SD：1.198	1.182 2, 227	n.s .010	n.s
非日常の	平均値：2.23 SD：1.178	平均値：2.47 SD：1.076	平均値：2.37 SD：1.272	.812 2, 227	n.s .007	n.s
つめたい	平均値：2.75 SD：1.127	平均値：2.43 SD：1.117	平均値：2.36 SD：1.186	2.222 2, 227	n.s .019	n.s
ぼんやりした	平均値：2.31 SD：1.067	平均値：2.41 SD：1.027	平均値：2.12 SD：1.115	1.445 2, 227	n.s .013	n.s
平等な	平均値：2.19 SD：1.258	平均値：2.13 SD：1.158	平均値：2.17 SD：1.289	.048 2, 227	n.s .000	n.s
不平等な	平均値：2.27 SD：1.172	平均値：1.96 SD：1.090	平均値：1.53 SD：.858	7.554 2, 227	p<.01 .062	低<中*・高* (p<.05・p<.05)
おだやかな	平均値：1.45 SD：.688	平均値：1.50 SD：.782	平均値：1.51 SD：.898	.104 2, 227	n.s .001	n.s
はっきりした	平均値：1.86 SD：1.067	平均値：1.68 SD：.864	平均値：1.59 SD：.812	1.389 2, 227	n.s .012	n.s
日常の	平均値：2.17 SD：1.121	平均値：1.94 SD：1.062	平均値：1.75 SD：1.010	2.467 2, 227	p<.10 .021	低<高† (p=.083)
楽な	平均値：1.50 SD：.777	平均値：1.52 SD：.851	平均値：1.25 SD：.604	2.502 2, 227	p<.10 .022	n.s
既知の	平均値：1.66 SD：.930	平均値：1.74 SD：1.031	平均値：1.44 SD：.876	1.821 2, 227	n.s .016	n.s
はげしい	平均値：1.61 SD：.884	平均値：1.62 SD：.843	平均値：1.39 SD：.670	1.664 2, 227	n.s .014	n.s
あたたかい	平均値：1.30 SD：.609	平均値：1.43 SD：.702	平均値：1.20 SD：.550	2.533 2, 227	p<.10 .022	n.s
みにくい	平均値：1.48 SD：.854	平均値：1.65 SD：.902	平均値：1.39 SD：.720	2.046 2, 227	n.s .018	n.s
優しい	平均値：1.25 SD：.535	平均値：1.39 SD：.655	平均値：1.27 SD：.582	1.387 2, 227	n.s .012	n.s
始まりの	平均値：1.28 SD：.603	平均値：1.31 SD：.605	平均値：1.27 SD：.665	.080 2, 227	n.s .001	n.s
軽々しい	平均値：1.63 SD：.951	平均値：1.53 SD：.883	平均値：1.31 SD：.623	2.349 2, 227	p<.10 .020	n.s
うつくしい	平均値：1.34 SD：.739	平均値：1.36 SD：.676	平均値：1.25 SD：.659	.435 2, 227	n.s .004	n.s
明るい	平均値：1.19 SD：.467	平均値：1.32 SD：.623	平均値：1.14 SD：.472	2.442 2, 227	p<.10 .021	n.s

(***)p<.001, (**p<.01, *p<.05, †p<.10)

Levene 5%以下

6) 罪悪感特性が一人称の死・二人称の死・三人称の死に対するイメージに及ぼす影響

罪悪感特性を独立変数とし、一人称の死に対する単独形容詞 SD 法の各 24 項目を従属変数として、繰り返しのない一元配置の分散分析を行い、さらに、主効果が見られた項目について、Levene の等分散性の検定の結果、等分散が等しい場合は Bonferroni 法を、等分散が等しくない場合は Dunnett 法を選択し下位検定を行った結果を **Table6-1** に示す。

「苦しい」において、罪悪感特性低群は高群より、中群は高群より有意に低かった ($F(2, 227) = 4.4, p < .05, \eta^2 = .04$)。「つめたい」において、低群は高群より有意に低い傾向があった ($F(2, 227) = 2.6, p < .10, \eta^2 = .02$)。「ぼんやりした」において、低群は高群より、中群は高群より有意に低い傾向があった ($F(2, 227) = 3.4, p < .05, \eta^2 = .03$)。「軽々しい」において、中群は高群より有意に低い傾向があった ($F(2, 227) = 2.6, p < .10, \eta^2 = .02$)。「終わりの」・「こわい」・「暗い」・「重々しい」・「未知の」・「非日常の」・「平等な」・「不平等な」・「おだやかな」・「はっきりした」・「日常の」・「楽な」・「既知の」・「はげしい」・「あたたかい」・「みにくい」・「優しい」・「始まりの」・「うつくしい」・「明るい」においては、有意差は見られなかった。

罪悪感特性を独立変数とし、二人称の死に対する単独形容詞 SD 法の各 24 項目を従属変数として、繰り返しのない一元配置の分散分析を行い、さらに、主効果が見られた項目について、Levene の等分散性の検定の結果、等分散が等しい場合は Bonferroni 法を、等分散が等しくない場合は Dunnett 法を選択し下位検定を行った結果を **Table6-2** に示す。

「暗い」において、低群は高群より有意に低い傾向があった ($F(2, 227) = 2.5, p < .10, \eta^2 = .02$)。「ぼんやりした」において、低群は高群より有意に低く、中群は高群より有意に低い傾向があった ($F(2, 227) = 3.9, p < .05, \eta^2 = .03$)。「不平等な」において、低群は高群より有意に低い傾向があった ($F(2, 227) = 2.6, p < .10, \eta^2 = .02$)。「優しい」において、中群は高群より有意に低かった ($F(2, 227) = 3.2, p < .05, \eta^2 = .03$)。「終わりの」・「こわい」・「重々しい」・「未知の」・「苦しい」・「非日常の」・「つめたい」・「平等な」・「おだやかな」・「はっきりした」・「日常の」・「楽な」・「既知の」・「はげしい」・「あたたかい」・「みにくい」・「始まりの」・「軽々しい」・「うつくしい」・「明るい」においては、有意差は見られなかった。

罪悪感特性を独立変数とし、三人称の死に対する単独形容詞 SD 法の各 24 項目を従属変数として、繰り返しのない一元配置の分散分析を行い、さらに、主効果が見られた項目について、Levene の等分散性の検定の結果、等分散が等しい場合は Bonferroni 法を、等分散が等しくない場合は Dunnett 法を選択し下位検定を行った結果を **Table6-3** に示す。

「終わりの」において、中群は高群より有意に低かった ($F(2, 227) = 4.0$, $p < .05$, $\eta^2 = .03$)。「苦しい」において、低群は高群より有意に低い傾向があった ($F(2, 227) = 2.4$, $p < .10$, $\eta^2 = .02$)。「ぼんやりした」において、低群は高群より有意に低かった ($F(2, 227) = 3.5$, $p < .05$, $\eta^2 = .03$)。「不平等な」において、低群は高群より有意に低く、中群は高群より有意に低い傾向があった ($F(2, 227) = 4.0$, $p < .05$, $\eta^2 = .03$)。「おだやかな」において、低群は中群より有意に高かった ($F(2, 227) = 4.4$, $p < .05$, $\eta^2 = .04$)。「はっきりした」において、中群は高群より有意に低かった ($F(2, 227) = 3.4$, $p < .05$, $\eta^2 = .03$)。「日常の」において、低群は高群より有意に低かった ($F(2, 227) = 4.4$, $p < .05$, $\eta^2 = .04$)。「はげしい」において、中群は高群より有意に低かった ($F(2, 227) = 3.4$, $p < .05$, $\eta^2 = .03$)。「こわい」・「暗い」・「重々しい」・「未知の」・「非日常の」・「つめたい」・「平等な」・「楽な」・「既知の」・「あたたかい」・「みにくい」・「優しい」・「始まりの」・「軽々しい」・「うつくしい」・「明るい」においては、有意差は見られなかった。

Table6-1 罪悪感特性と一人称の死に対する単独形容詞SD法の各尺度項目における分散分析結果

	罪悪感特性 高群：高	罪悪感特性 中群：中	罪悪感特性 低群：低	F値/df	p/η ²	下位検定
終わりの	平均値：3.39 SD：.862	平均値：3.21 SD：.920	平均値：3.05 SD：1.105	1.933 2, 227	n.s .017	n.s
こわい	平均値：3.10 SD：.961	平均値：3.03 SD：1.088	平均値：3.03 SD：1.098	.095 2, 227	n.s .001	n.s
暗い	平均値：3.03 SD：.930	平均値：2.83 SD：1.008	平均値：2.69 SD：1.118	1.756 2, 227	n.s .013	n.s
重々しい	平均値：2.92 SD：.988	平均値：2.61 SD：1.050	平均値：2.58 SD：1.163	2.049 2, 227	n.s .018	n.s
未知の	平均値：3.13 SD：1.072	平均値：3.10 SD：1.108	平均値：3.39 SD：.947	1.534 2, 227	n.s .013	n.s
苦しい	平均値：3.07 SD：.892	平均値：2.68 SD：1.092	平均値：2.53 SD：1.072	4.438 2, 227	p<.05 .038	低<高*, 中<高* (p<.05, p<.05)
非日常の	平均値：2.72 SD：1.142	平均値：2.64 SD：1.163	平均値：2.68 SD：1.166	.108 2, 227	n.s .001	n.s
つめたい	平均値：2.84 SD：1.067	平均値：2.73 SD：1.057	平均値：2.41 SD：1.131	2.630 2, 227	p<.10 .023	低<高† (p=.091)
ぼんやりした	平均値：2.72 SD：1.002	平均値：2.34 SD：.979	平均値：2.31 SD：1.087	3.435 2, 227	p<.05 .029	低<高†, 中<高† (p=.077, p=.055)
平等な	平均値：2.59 SD：1.116	平均値：2.38 SD：1.058	平均値：2.46 SD：1.179	.697 2, 227	n.s .006	n.s
不平等な	平均値：1.93 SD：1.078	平均値：1.71 SD：1.008	平均値：1.58 SD：.914	1.977 2, 227	n.s .017	n.s
おだやかな	平均値：2.00 SD：1.000	平均値：1.98 SD：.967	平均値：2.05 SD：1.166	.087 2, 227	n.s .001	n.s
はっきりした	平均値：2.11 SD：.985	平均値：1.89 SD：1.070	平均値：1.88 SD：1.052	1.064 2, 227	n.s .009	n.s
日常の	平均値：1.89 SD：1.002	平均値：1.75 SD：.950	平均値：1.59 SD：.893	1.423 2, 227	n.s .012	n.s
楽な	平均値：2.28 SD：1.127	平均値：2.11 SD：1.008	平均値：2.34 SD：1.092	1.058 2, 227	n.s .009	n.s
既知の	平均値：1.69 SD：.867	平均値：1.55 SD：.797	平均値：1.46 SD：.727	1.271 2, 227	n.s .011	n.s
はげしい	平均値：1.59 SD：.739	平均値：1.43 SD：.683	平均値：1.39 SD：.644	1.519 2, 227	n.s .013	n.s
あたたかい	平均値：1.72 SD：.839	平均値：1.68 SD：.918	平均値：1.78 SD：1.018	.216 2, 227	n.s .002	n.s
みにくい	平均値：1.66 SD：.750	平均値：1.57 SD：.818	平均値：1.42 SD：.649	1.446 2, 227	n.s .013	n.s
優しい	平均値：1.80 SD：.792	平均値：1.59 SD：.816	平均値：1.61 SD：.910	1.370 2, 227	n.s .012	n.s
始まりの	平均値：1.52 SD：.744	平均値：1.51 SD：.821	平均値：1.59 SD：.853	.214 2, 227	n.s .002	n.s
軽々しい	平均値：1.87 SD：1.024	平均値：1.54 SD：.853	平均値：1.61 SD：.929	2.612 2, 227	p<.10 .022	中<高† (p=.074)
うつくしい	平均値：1.59 SD：.824	平均値：1.41 SD：.708	平均値：1.53 SD：.838	1.171 2, 227	n.s .010	n.s
明るい	平均値：1.52 SD：.744	平均値：1.41 SD：.708	平均値：1.54 SD：.750	.844 2, 227	n.s .007	n.s

(***)p<.001, (**p<.01, *p<.05, †p<.10)

Levene 5%以下

Table6-2 罪悪感特性と二人称の死に対する単独形容詞SD法の各尺度項目における分散分析結果

	罪悪感特性 高群：高	罪悪感特性 中群：中	罪悪感特性 低群：低	F値/df	p/η ²	下位検定
終わりの	平均値：3.30 SD：.955	平均値：2.99 SD：1.079	平均値：2.90 SD：1.199	2.314 2, 227	n.s .020	n.s
こわい	平均値：3.16 SD：1.019	平均値：3.15 SD：1.024	平均値：3.10 SD：1.012	.068 2, 227	n.s .001	n.s
暗い	平均値：3.15 SD：.946	平均値：2.93 SD：1.090	平均値：2.71 SD：1.130	2.513 2, 227	p<.10 .022	低<高† (p=.078)
重々しい	平均値：2.98 SD：1.057	平均値：2.91 SD：1.146	平均値：2.90 SD：1.227	.107 2, 227	n.s .001	n.s
未知の	平均値：2.69 SD：1.205	平均値：2.50 SD：1.194	平均値：2.56 SD：1.249	.476 2, 227	n.s .004	n.s
苦しい	平均値：2.75 SD：1.090	平均値：2.93 SD：1.139	平均値：2.88 SD：1.131	.470 2, 227	n.s .004	n.s
非日常の	平均値：2.90 SD：1.150	平均値：2.88 SD：1.194	平均値：2.85 SD：1.186	.033 2, 227	n.s .000	n.s
つめたい	平均値：2.61 SD：1.084	平均値：2.45 SD：1.114	平均値：2.46 SD：1.150	.446 2, 227	n.s .004	n.s
ぼんやりした	平均値：2.48 SD：1.120	平均値：2.06 SD：1.025	平均値：1.98 SD：1.122	3.855 2, 227	p<.05 .033	低<高*, 中<高† (p=.039, p)
平等な	平均値：2.18 SD：1.073	平均値：1.98 SD：1.066	平均値：2.14 SD：1.210	.755 2, 227	n.s .007	n.s
不平等な	平均値：2.15 SD：1.093	平均値：2.02 SD：1.125	平均値：1.71 SD：.983	2.608 2, 227	p<.10 .022	低<高† (p=.085)
おだやかな	平均値：2.00 SD：1.049	平均値：1.78 SD：.942	平均値：1.90 SD：1.140	.921 2, 227	n.s .008	n.s
はっきりした	平均値：2.11 SD：.985	平均値：1.89 SD：1.070	平均値：1.88 SD：1.052	1.064 2, 227	n.s .009	n.s
日常の	平均値：1.48 SD：.788	平均値：1.38 SD：.690	平均値：1.51 SD：.898	.606 2, 227	n.s .005	n.s
楽な	平均値：1.44 SD：.742	平均値：1.45 SD：.841	平均値：1.46 SD：.795	.006 2, 227	n.s .000	n.s
既知の	平均値：1.52 SD：.808	平均値：1.60 SD：.869	平均値：1.53 SD：.858	.223 2, 227	n.s .002	n.s
はげしい	平均値：1.62 SD：.799	平均値：1.45 SD：.761	平均値：1.44 SD：.650	1.296 2, 227	n.s .011	n.s
あたたかい	平均値：1.66 SD：.892	平均値：1.45 SD：.808	平均値：1.64 SD：1.047	1.496 2, 227	n.s .013	n.s
みにくい	平均値：1.28 SD：.488	平均値：1.39 SD：.767	平均値：1.27 SD：.639	.859 2, 227	n.s .008	n.s
優しい	平均値：1.82 SD：.922	平均値：1.46 SD：.809	平均値：1.63 SD：.963	3.242 2, 227	p<.05 .028	中<高* (p=.036)
始まりの	平均値：1.59 SD：.864	平均値：1.44 SD：.723	平均値：1.42 SD：.792	.926 2, 227	n.s .008	n.s
軽々しい	平均値：1.28 SD：.609	平均値：1.15 SD：.453	平均値：1.15 SD：.448	1.410 2, 227	n.s .012	n.s
うつくしい	平均値：1.49 SD：.722	平均値：1.30 SD：.583	平均値：1.44 SD：.772	1.845 2, 227	n.s .016	n.s
明るい	平均値：1.56 SD：.866	平均値：1.33 SD：.692	平均値：1.42 SD：.835	1.720 2, 227	n.s .015	n.s

(***)p<.001, (**p<.01, *p<.05, †p<.10)

Levene 5%以下

Table6-3 罪悪感特性と三人称の死に対する単独形容詞SD法の各尺度項目における分散分析結果

	罪悪感特性 高群：高	罪悪感特性 中群：中	罪悪感特性 低群：低	F値/df	p/η ²	下位検定
終わりの	平均値：2.97 SD：1.080	平均値：2.48 SD：1.210	平均値：2.85 SD：1.186	3.967 2, 227	p<.05 .034	中<高* (p=.030)
こわい	平均値：2.64 SD：1.184	平均値：2.55 SD：1.170	平均値：2.41 SD：1.085	.630 2, 227	n.s .006	n.s
暗い	平均値：2.92 SD：1.005	平均値：2.69 SD：1.147	平均値：2.54 SD：1.104	1.791 2, 227	n.s .016	n.s
重々しい	平均値：2.75 SD：1.105	平均値：2.58 SD：1.104	平均値：2.51 SD：1.104	.804 2, 227	n.s .007	n.s
未知の	平均値：2.33 SD：1.165	平均値：2.21 SD：1.126	平均値：2.20 SD：1.186	.247 2, 227	n.s .002	n.s
苦しい	平均値：2.72 SD：1.019	平均値：2.50 SD：1.090	平均値：2.29 SD：1.115	2.422 2, 227	p<.10 .021	低<高† (p=.086)
非日常の	平均値：2.44 SD：1.118	平均値：2.35 SD：1.145	平均値：2.37 SD：1.230	.138 2, 227	n.s .001	n.s
つめたい	平均値：2.75 SD：1.043	平均値：2.37 SD：1.180	平均値：2.47 SD：1.150	2.225 2, 227	n.s .019	n.s
ぼんやりした	平均値：2.57 SD：1.102	平均値：2.29 SD：1.052	平均値：2.07 SD：.998	3.497 2, 227	p<.05 .030	低<高* (p=.027)
平等な	平均値：2.18 SD：1.232	平均値：2.15 SD：1.221	平均値：2.14 SD：1.210	.020 2, 227	n.s .000	n.s
不平等な	平均値：2.26 SD：1.168	平均値：1.85 SD：1.082	平均値：1.75 SD：.958	4.044 2, 227	p<.05 .034	低<高*, 中<高† (p=.027, p
おだやかな	平均値：1.59 SD：.783	平均値：1.34 SD：.654	平均値：1.68 SD：.955	4.411 2, 227	p<.05 .037	低>中* (p<.05)
はっきりした	平均値：1.97 SD：1.048	平均値：1.60 SD：.837	平均値：1.64 SD：.866	3.434 2, 227	p<.05 .029	中<高* (p=.035)
日常の	平均値：2.21 SD：1.112	平均値：1.98 SD：1.084	平均値：1.64 SD：.943	4.405 2, 227	p<.05 .037	低<高* (p=.011)
楽な	平均値：1.49 SD：.788	平均値：1.41 SD：.770	平均値：1.47 SD：.796	.266 2, 227	n.s .002	n.s
既知の	平均値：1.74 SD：.998	平均値：1.67 SD：.996	平均値：1.47 SD：.878	1.235 2, 227	n.s .011	n.s
はげしい	平均値：1.79 SD：.933	平均値：1.46 SD：.798	平均値：1.49 SD：.679	3.394 2, 227	p<.05 .029	中<高* (p=.039)
あたたかい	平均値：1.51 SD：.809	平均値：1.25 SD：.510	平均値：1.32 SD：.655	3.340 2, 227	p<.05 .029	n.s
みにくい	平均値：1.61 SD：.900	平均値：1.52 SD：.843	平均値：1.51 SD：.817	.262 2, 227	n.s .002	n.s
優しい	平均値：1.39 SD：.665	平均値：1.22 SD：.477	平均値：1.44 SD：.726	3.228 2, 227	p<.05 .028	n.s
始まりの	平均値：1.34 SD：.574	平均値：1.26 SD：.631	平均値：1.29 SD：.645	.333 2, 227	n.s .003	n.s
軽々しい	平均値：1.61 SD：.954	平均値：1.45 SD：.797	平均値：1.49 SD：.838	.707 2, 227	n.s .006	n.s
うつくしい	平均値：1.44 SD：.742	平均値：1.24 SD：.620	平均値：1.37 SD：.740	1.961 2, 227	n.s .017	n.s
明るい	平均値：1.23 SD：.589	平均値：1.19 SD：.479	平均値：1.32 SD：.628	1.095 2, 227	n.s .010	n.s

(***)p<.001, (**p<.01, *p<.05, †p<.10)

Levene 5%以下

V 考察

大学生を対象に実施した本研究の第一の目的は、一人称の死・二人称の死・三人称の死に対するイメージを、両価性の把握に適した単独形容詞 SD 法を用いて調査し、それらの分類相互の位置づけを検討することであった。さらに、第二の目的は、回答者個人の特性を測定するための質問項目を用いて、性別やトラウマ経験の有無・詳細、不安特性、うつ特性、罪悪感特性といった個々人の特性を評価し、それらの特性が一人称の死・二人称の死・三人称の死に対するイメージに及ぼす影響についても探索的な検討を行うことであった。以下に、本研究の結果を踏まえた一人称の死・二人称の死・三人称の死に対するイメージに関して考察する。

1) 一人称の死・二人称の死・三人称の死に対するイメージの分類相互の位置づけ

単独形容詞 SD 法の各 24 項目において、一人称の死・二人称の死・三人称の死に対する全分析対象者 230 名の平均値を算出し、プロフィールを作成した結果、大学生は死全体を、「終わりの」・「こわい」・「暗い」・「重々しい」・「未知の」・「苦しい」・「非日常の」・「つめたい」といったネガティブなイメージで捉えやすいことが示された。20 代から 90 代の男女を対象に、年代及び性別による死生観の違いの把握に努めた長崎・松岡・山下（2006）の研究では、死に対するイメージにおいて、全ての年代で「死は怖い」と思う者は 60% 以上、「死は悲しい」と思う者は 80% 以上、「死はつらい」と思う者は 70% 以上にのぼり、全体的にマイナスイメージであった。また、増田（2012）の研究では、女子大学生を対象に死のイメージについて自由記述で求めた結果、全体の約 50% が否定的、約 35% が両価的、約 15% が肯定的に分類された。さらに、大学生を対象に、死のイメージ 5 つを順位付けさせた齋藤ら（2002）の研究では、最も多くの学生が 1 位に選択したのは「怖い」であり、続いて「寂しい」、「苦しい」、「安らか」、「美しい」の順であったことが報告されており、ポジティブなイメージよりネガティブなイメージが優先される傾向が示されている。本研究で得られた死全体に対するイメージの傾向は、これら先行研究と一致する結果となった。

一人称の死・二人称の死・三人称の死を独立変数とし、単独形容詞 SD 法の各 24 項目を従属変数として、繰り返しのある一元配置の分散分析を行い、さらに、主効果が見られた項目について下位検定（Bonferroni 法）を行った。その結果、一人称の死に対しては、二人称の死より「終わりの」・「未知の」・「つめたい」・「ぼんやりした」・「平等な」・「日常の」・「楽な」・「あたたかい」・「みにくい」・「軽々しい」イメージを持ちやすく、三人称の死より「終わりの」・「こわい」・「未知の」・「苦しい」・「非日常の」・「つめたい」・「平等な」・「おだやかな」・「はっきりした」・「楽な」・「あたたかい」・「優しい」・「始まりの」・「うつくしい」・「明るい」イメー

ジを持ちやすいことが示された。二人称の死に対しては、一人称の死より「重々しい」・「非日常の」・「不平等な」イメージを持ちやすく、三人称の死より「終わりの」・「こわい」・「暗い」・「重々しい」・「未知の」・「苦しい」・「非日常の」・「おだやかな」・「あたたかい」・「優しい」・「始まりの」・「明るい」イメージを持ちやすいことが示された。三人称の死に対しては、一人称の死より「不平等な」・「日常の」イメージを持ちやすく、二人称より「日常の」・「みにくい」・「軽々しい」イメージを持ちやすいことが示された。

以上のことから、まず、一人称の死に対するイメージの特徴として、①人生の終結・自身の消滅と捉えられやすいことが考えられる。先行研究では、死は終結・消滅することとして捉えられやすいこと（増田，2012）や、20代において「自分の存在の消滅が不安」、「死後の世界が不安」と思う者がそれぞれ約45%にのぼったこと（長崎ら，2006）が明らかにされている一方で、「天国・楽園」や「輪廻転生」、「魂」、「死後の世界はある」など、「終わり」に反して「始まり」をイメージさせるポジティブな反応が一定数見受けられた（増田，2012；松下，2009）ものもある。これら先行研究と本研究の結果を重ねると、一人称の死に対しては二人称の死・三人称の死より「終わりの」イメージを抱きやすく、一人称の死・二人称の死に対しては三人称の死より「始まりの」イメージを抱きやすいことが示唆された。この背景には、日本に存在する、回忌法要やお盆、お彼岸、お墓参りなどの、死者を想って追善供養を重ねる、生者と死者がコミュニケーションをとり続ける文化・慣習が影響している可能性が考えられる。つまり、二人称の死は追善供養を通して亡くなってもなお存在するかのよう感じられやすいが、一人称の死は経験できない性質を持っているために存在の消滅への不安に繋がり、人生の終結・自身の消滅と捉えられやすいといえる。また、②漠然とした不安感を抱きやすいことも考えられる。その背景には、一人称の死が経験できない未知のものであることに加え、一人称の死を意識するきっかけとして挙げられる体調の異変・悪化や加齢（長崎ら，2006）は、大学生にとっては死に直結するレベルでは受け取られないことが考えられる。さらに、二人称の死に直面する機会も減少しているため、自身や他人といった具体的な死を想定してのイメージというより、客観的なネガティブ感情が目立つ結果となったといえる。実際、20代において「死は何となく不安」と思う者が約75%を占め、若者が死を頭で考え、認識として捉える傾向にあったと考察した先行研究も見られる（長崎ら，2006）。さらに、③宿命であると感じる傾向があることも考えられる。先行研究には、死の捉え方に関して、全ての年代で「死ぬのは自然なこと」と思う者が80%以上、「死は避けることができない」と思う者が85%以上を占めるもの（長崎ら，2006）や、死は宿命であると捉えられる傾向が示されたもの（増田，2012）がある。本研究でも、一人称の死は二人称の死や三人称の死より平等であるとイメージされることが示されており、これら先行研究と一致する結果となった。加えて、④理想が投影される傾向があることも示唆された。すでに考察したような、「心身の苦し

みがない」ことや「笑顔で死んでいきたい」こと、「無駄・無用な痛みを取り除く」といった理想の死のイメージに加え、看取られる想像や自分らしい環境で死ぬことへの理想が投影されていることが考えられる。

続いて、二人称の死に対するイメージの特徴として、①一人称の死・三人称の死より重要なものと捉えられやすいことが考えられる。アメリカの心理学者 Holmes と内科医の Rahe は、ライフイベントにどれくらいのストレスがあるかを調査・点数化し、社会的再適応評価尺度を作成した。すると、配偶者の死や近親者の死、親友の死といった、本研究で定義されている二人称の死にあたるライフイベントが強いストレスを与えることが明らかとなった。したがって、経験することのできない一人称の死と、実感の伴いにくい三人称の死よりも、インパクトの大きい二人称の死が重視されるといえる。また、②二人称の死を実感する場と機会の遠のきも考えられる。本研究の結果、二人称の死は一人称の死・三人称の死よりも、「非日常の」イメージを感じやすいことが示唆された。この背景には、前述したような、実感を伴う二人称の死が日常から切り離されたことと、それに替わって実感を伴わない三人称の死が日常に入り込んできたことが影響していると考えられる。

さらに、三人称の死に対するイメージの特徴として、①実感を伴わない「バーチャルな死」が日常にありふれていることが考えられる。また、②凄惨な事件・事故の報道により、一人称の死より不平等に感じられやすいことが考えられる。

2) 個々人の特性が一人称の死・二人称の死・三人称の死に対するイメージに及ぼす影響

a. 性差による影響

個々人の特性について、まず、性差を独立変数とし、一人称の死・二人称の死・三人称の死それぞれに対する単独形容詞 SD 法の各 24 項目を従属変数として、対応のない T 検定を行った。その結果、男性は女性に比べ、一人称の死においては「はっきりした」・「軽々しい」・「うつくしい」イメージを持ちやすく、二人称の死においては「平等な」・「はっきりした」・「日常の」・「楽な」・「既知の」・「はげしい」・「みにくい」・「優しい」・「軽々しい」・「うつくしい」・「明るい」イメージを持ちやすく、三人称の死においては「終わりの」・「おだやかな」・「はっきりした」・「楽な」・「既知の」・「はげしい」・「あたたかい」・「みにくい」・「優しい」・「始まりの」・「うつくしい」・「明るい」イメージを持ちやすいことが示された。女性は男性に比べ、一人称の死において「こわい」・「未知の」・「非日常の」イメージを持ちやすいことが示された。

以上のことから、性差による影響について、①男性は一人称の死・二人称の死・三人称の死を理想的に捉えつつも、現実問題に向き合おうという葛藤状態

にある傾向が、②女性は一人称の死を現実的に捉える傾向があることが考えられる。女性は男性に比べて、自身の死を非日常のものと感じ、そのために未知でこわいものと捉えている。これは、経験できないという性質を持つ一人称の死において、現実的な反応と考えられる。一方で、男性は女性に比べて、自身の死に「うつくしい」、近親者の死に「楽な」・「優しい」・「うつくしい」・「明るい」、他人の死に「おだやかな」・「楽な」・「あたたかい」・「優しい」・「始まりの」・「うつくしい」・「明るい」と、理想的なイメージを抱きやすいことが示された。長崎ら(2006)の研究では、「死は何となく不安」、「大切な人の死に遭遇して死を意識する」、「医療や看護の勉強(講演会を聞く)をすることで死を意識するようになった」、「死を意識して持ち物などの保管に気をつけている」、「一般的な死を同年代の仲間と話す」といった項目で性差が見られ、いずれも男性より女性の割合が多かった。女性が男性より死に対する関心が高く、死を意識した具体的な行動に結びついている理由としては、日本社会において、女性が家庭の中で介護や看護の役割を担うことが多い反映ではないかと考察がなされており、未だ根強いそういった社会的な風潮が大学生にも及んだ可能性が考えられる。また、老年期に焦点を当て、死生観・終末期医療の意識調査を行った田中(2002)の研究では、「死を考える」、「死の不安・恐怖」の両因子ともにおいて、女性が男性よりも高い数値であったことを報告しており、不安と関心は表裏の関係にあると考察されたことから、男性は死全体を理想的に、女性は一人称の死を現実的に捉えていることが示唆された。なお、男性には、二人称の死と三人称の死において、理想的なイメージの中にも「はげしい」、「みにくい」といったネガティブなイメージも見受けられる。これは、現実感をもって捉えようとしている葛藤が表れているといえる。

b. ト라우マ経験の有無による影響

次に、トラウマ経験の有無を独立変数とし、一人称の死・二人称の死・三人称の死それぞれに対する単独形容詞 SD 法の各 24 項目を従属変数として、対応のない T 検定を行った。その結果、トラウマ有り群はトラウマ無し群に比べ、一人称の死においては「終わりの」・「おだやかな」・「はっきりした」・「軽々しい」・「うつくしい」というイメージを持ちやすく、二人称の死においては「つめたい」・「はっきりした」・「既知の」・「軽々しい」・「うつくしい」イメージを持ちやすく、三人称の死においては「おだやかな」・「はっきりした」・「みにくい」・「始まりの」・「軽々しい」・「うつくしい」イメージを持ちやすいことが示された。トラウマ無し群はトラウマ有り群に比べ、一人称の死において「始まりの」イメージを持ちやすいことが示された。

以上のことから、トラウマ経験の有無による影響について、①一人称の死において、トラウマ有り群は現実的なイメージを、トラウマ無し群は理想的なイメージを持ちやすいことが考えられる。本研究では、一人称の死において、トラウマ有り群は「終わりの」イメージを、トラウマ無し群は「始まりの」イメ

ージを持ちやすいという対極の結果が示された。「始まりの」イメージを伴う「天国・楽園」や「死後の世界」, 「輪廻転生」は未だ想像の範囲内であるため, 死に対して, 「終わりの」は現実的, 「始まりの」は理想的なイメージであるといえる。

また, ②一人称の死・二人称の死・三人称の死において, トラウマ有り群は現実的・経験的な一方で, 防衛反応としてポジティブなイメージも想起しやすいことが考えられる。

c. 不安特性による影響

続いて, 不安特性を独立変数とし, 一人称の死・二人称の死・三人称の死それぞれに対する単独形容詞 SD 法の各 24 項目を従属変数として, 繰り返しのない一元配置の分散分析を行い, さらに, 主効果が見られた項目について, Levene の等分散性の検定の結果, 等分散が等しい場合は Bonferroni 法を, 等分散が等しくない場合は Dunnett 法を選択し下位検定を行った。その結果, 不安特性中群は低群に比べ, 一人称の死においては「こわい」・「暗い」・「苦しい」・「みにくい」・「優しい」イメージを持ちやすく, 三人称の死においては「こわい」・「暗い」・「重々しい」・「苦しい」・「不平等な」・「既知の」・「はげしい」イメージを持ちやすいことが示された。不安特性高群は低群に比べ, 一人称の死においては「こわい」・「暗い」・「重々しい」・「苦しい」・「つめたい」・「はげしい」・「みにくい」イメージを持ちやすく, 二人称の死においては「暗い」・「ぼんやりした」・「不平等な」イメージを持ちやすく, 三人称の死においては「つめたい」・「不平等な」・「日常の」・「既知の」イメージを持ちやすいことが示された。さらに, 高群は中群に比べ, 一人称の死において「つめたい」イメージを持ちやすいことが示された。

以上のことから, 不安特性による影響について, ①一人称の死・二人称の死・三人称の死において, 不安特性が中～高程度の者は低い者より, ネガティブイメージを抱きやすいことが示唆された。不安は, 自身の安心の拠り所の喪失と関連した陰性感情であることから, 不安特性の高い者の方が死に対しても陰性感情を抱きやすいものと考えられる。また, ②二人称の死・三人称の死において, 不安特性が中～高程度の者は低い者より, 「不平等な」イメージを抱きやすいことが示唆された。不安特性の高い者が持つ依存傾向によって, 一人称の死だけではなく二人称の死・三人称の死に対してもマイナスイメージや「不平等な」イメージを抱きやすいと考えられる。③三人称の死において, 不安特性が中～高程度の者は低い者より, 「既知の」イメージを抱きやすいことがわかった。それは, 死に関する情報を見聞きしたときに, 不安特性が高い者の方がその情報に注目しやすいこと, あるいは囚われやすいことによるものと考えられる。さらに, ④不安特性の高低は, ポジティブなイメージ反応には影響しないことも示された。

d. うつ特性による影響

さらに、うつ特性を独立変数とし、一人称の死・二人称の死・三人称の死それぞれに対する単独形容詞 SD 法の各 24 項目を従属変数として、繰り返しのない一元配置の分散分析を行い、さらに、主効果が見られた項目について、Levene の等分散性の検定の結果、等分散が等しい場合は Bonferroni 法を、等分散が等しくない場合は Dunnett 法を選択し下位検定を行った。その結果、うつ特性中群は低群に比べ、一人称の死において「こわい」・「苦しい」・「つめたい」・「みにくい」・「優しい」・「軽々しい」イメージを持ちやすく、二人称の死においては「不平等な」・「日常の」・「楽な」・「優しい」・「うつくしい」イメージを持ちやすく、三人称の死においては「こわい」・「不平等な」イメージを持ちやすいことが示された。さらに、中群は高群に比べて、一人称の死において「あたたかい」というイメージを持ちやすいことが示された。うつ特性高群は低群に比べ、一人称の死においては「暗い」・「苦しい」・「つめたい」・「不平等な」・「みにくい」・「軽々しい」というイメージを持ちやすく、二人称の死においては「ぼんやりした」・「不平等な」・「日常の」・「うつくしい」というイメージを持ちやすく、三人称の死においては「重々しい」・「不平等な」・「日常の」というイメージを持ちやすいことが示された。

以上のことから、うつ特性による影響について、①一人称の死において、うつ特性が中程度の者は低い者より「こわい」とイメージされやすいが、高程度になると「こわい」イメージに有意差が見られなくなることが示された。また、②一人称の死において、うつ特性が中～高程度の者は低い者より「みにくい」・「軽々しい」とイメージされることが示された。これは自己評価の低さが表れていると考えられ、①・②が自殺の要因となっていることが示唆された。さらに、③うつ特性の中～高程度の者は低い者より、一人称の死と二人称の死の間にイメージの断絶を感じやすいことが考えられる。即ち、一人称の死においては、うつ特性が中～高程度の者は低い者よりネガティブなイメージを抱きやすいことが示唆された一方、二人称の死においては、うつ特性が中～高程度の者は低い者よりポジティブなイメージを抱きやすいことが示唆された。不安特性の高い者が依存傾向によって、一人称の死だけではなく二人称の死・三人称の死に対してもマイナスイメージや「不平等な」イメージを抱きやすい一方で、うつ特性の高い者は孤独感が強いことで、一人称の死と二人称の死・三人称の死との間にイメージの差が生じやすいと考えられる。

e. 罪悪感特性による影響

最後に、罪悪感特性を独立変数とし、一人称の死・二人称の死・三人称の死それぞれに対する単独形容詞 SD 法の各 24 項目を従属変数として、繰り返しのない一元配置の分散分析を行い、さらに、主効果が見られた項目について、Levene の等分散性の検定の結果、等分散が等しい場合は Bonferroni 法を、等分散が等しくない場合は Dunnett 法を選択し下位検定を行った。その結果、罪悪感特性低群は中群に比べ、三人称の死において「おだやかな」というイメージを持ちやすいことが示された。罪悪感特性高群は低群に比べ、一人称の死に

においては「苦しい」・「つめたい」・「ぼんやりした」というイメージを持ちやすく、二人称の死においては「暗い」・「ぼんやりした」・「不平等な」というイメージを持ちやすく、三人称の死においては「苦しい」・「ぼんやりした」・「不平等な」・「日常の」というイメージを持ちやすいことが示された。さらに、高群は中群に比べ、一人称の死においては「苦しい」・「ぼんやりした」・「軽々しい」というイメージを持ちやすく、二人称の死においては「ぼんやりした」・「優しい」というイメージを持ちやすく、三人称の死においては「終わりの」・「不平等な」・「はっきりした」・「はげしい」というイメージを持ちやすいことが示された。

以上のことから、罪悪感特性による影響について、①一人称の死・二人称の死・三人称の死に関して、罪悪感特性が高い者は低い者より、解離的な態度をとりやすいことが考えられる。即ち、罪悪感特性が高い者は死からのインパクトを受けやすいがために、防衛反応として「ぼんやり」と認識しがちであるといえよう。また、②二人称の死・三人称の死において、罪悪感特性が高い者は低い者よりも「不平等な」イメージを抱きやすいことに関しては、死は本来誰にでも平等に訪れるものであるところを、罪悪感特性の高い者は、二人称の死・三人称の死を「運命のいたずら」的な、ある種の作為の下に生じるものと感じやすい面があるためと考えられる。

3) 総合考察

大学生は死全体をイメージするとき、ポジティブなイメージよりもネガティブなイメージが優先されるが、自身の死・近親者の死・他人の死に分類すると、それぞれ想起されやすいイメージは異なっていた。

自身の死は、逃れられない宿命と理解されながらも、存在の消滅への恐れから漠然とした不安感を抱きやすく、かつ、経験できないがゆえに理想が投影されやすい特徴が示唆された。近親者の死は、経験する機会や場が減少しているにも関わらず、自身や他人の死より重要なものと捉えられやすい特徴が示唆された。他人の死は、日常にありふれているが実感を伴わず、不平等に感じられやすい特徴が示唆された。本研究の結果は、Jankélévitch, V. が考察した、他人の死の無名性と、自身の死の主体性、そしてその間にある近親者の死の親近さ・特権性を如実に表したといえる。

また、個々人の特性が死に対するイメージに及ぼす影響を検討すると、男性は死全体を理想的に捉えやすい特徴が、女性は自身の死を現実的に捉えやすい特徴があることが示唆された。トラウマ経験者は死全体を現実的・経験的に捉えやすい反面、防衛反応が働きポジティブイメージも混在する特徴が、トラウマ未経験者は自身の死を理想的に捉えやすい特徴があることも示唆された。不安傾向が中～高程度の者は低い者より死全体に対してネガティブイメージを抱きやすい特徴、依存性から近親者・他人の死を理不尽であると捉えやすい特徴、他人の死に対して親和性を持ちやすい特徴、さらに、不安傾向の高低はポジティブなイメージには影響しない特徴があることも示唆された。うつ傾向が中程

度の者は低い者より自身の死に恐怖心を抱きやすいが、高程度になると恐怖心が弱まる特徴や、うつ傾向が中～高程度の者は自身の死を軽視しやすい特徴、それらが自殺形成の高さと関連がある可能性、うつ傾向の中～高程度の者は自身・近親者の死の間にイメージの断絶を感じやすい特徴があることも示唆された。罪悪感傾向が高い者は死全体に対し防衛手段として解離的な態度をとりやすい特徴、近親者・他人の死には理不尽なイメージを抱きやすい特徴があることも示唆された。

さらに、本研究の結果から、大学生を対象とした自殺対策や死生観教育では、特に近親者の死に焦点を当てることが有効である可能性が示唆された。また、個々人の様々な特性を理解し、その特徴に留意することが臨床的に有用であると考えられる。

VI 本研究の限界と今後の課題

本研究で実施した質問紙のフェイスシートにおけるトラウマ経験の有無とその詳細について、有無に関しては結果・考察で取り扱うことができたが、詳細についての結果・考察が不十分であった。その要因としては、「どなたが」を尋ねる項目について、自由記述で回答を求めたが故に、回答者個々人の捉え方の違いがそこに反映され、研究者が一人称・二人称・三人称に分類することが困難であったことや、時期の項目について、回答者の年齢を記載する者と、「どなたが」にあたる人の年齢を記載する者との混在が生じてしまったことが挙げられる。そのため、トラウマ経験の有無とその詳細の影響を吟味するためには、よりの確に捉えられるよう工夫を重ねる余地があると考えられる。

また、本研究の調査は、新型コロナウイルスの感染拡大が社会的に大きな問題となっている時期に実施されたが、新型コロナウイルス禍における、死に関する研究・知見は未だ不十分であり、本研究は、一人称の死・二人称の死・三人称の死に対するイメージの分類相互の位置づけを検討すること、及び、回答者個人の特性が一人称の死・二人称の死・三人称の死に対するイメージに及ぼす影響についての探索的な検討を行うことに重きを置いて進められたため、新型コロナウイルスの影響について考察することが困難であった。今後、新型コロナウイルスの影響を検討するためには、新型コロナウイルスの感染が収束した時点で同様の調査を実施した上で本調査の結果と比較するなど、新たな枠組での対応が必要であると考えられる。

参考・引用文献

阿部洋子 2017 現代日本の青年期女子における死のイメージとグリーフケアの認知度 コミュニケーション文化, 11号, 185-198

赤澤正人・藤田綾子 2007 青年期の死生観に関する研究 日本教育心理学会総会発表論文集, 49(0), 338

朝野聡・滝本信貴・野原三洋子・野原忠博 1988 死の不安と告知に関する一考察 保健の科学, 30, 265-269

e-Stat 政府統計の総合窓口 2021 死亡の場所別にみた年次別死亡数・百分率 人口動態調査 人口動態統計 確定数 死亡, 5-5 <https://www.e-stat.go.jp/dbview?sid=0003411652>

衛藤暢明・川嶋弘詔 思春期の自殺の実態と自殺予防に向けた検討 九州神経精神医学, 第 63 巻, 第 2 号, 75-82

藤井美和 2003 大学生のもつ「死」のイメージ: テキストマイニングによる分析 関西学院大学社会学部紀要, 95 号, 145-155

後藤有紀 2016 大学生における死生観形成の要因 北星学園大学大学院論集, 7 号, 141-149

平山正実 1991 死生学とはなにか 日本評論社

本郷光・岡本祐子・池田龍也 2015 青年期における死の不安と精神的健康の関連 - 死の不安への対処方略に焦点を当てて - 広島大学心理学研究, 第 15 号, 109-128

堀薫夫 1996 大学生と高齢者の老いと死への意識の構造の比較 大阪教育大学紀要 IV 教育科学, 44, 185-197

石田美和 2008 看護学生の死生観構築を目指した教育の一考察 名古屋市立大学大学院人間文化研究科 人間文化研究, 第 9 号, 111-126

石坂昌子 2003 死の意味づけの質的検討と量的検討 - 死に対する心理の理解 (1) 日本心理学会第 67 回大会, 300

糸島陽子 2005 死生観形成に関する調査 - 看護学生と大学生の比較 - 京都市看護短期大学紀要, 30, 141-147

伊藤雅之 2007 若者の死生観 - 日本人大学生が抱く死と死後のイメージ - 愛知学院大学文学部紀要, 37 号, 95-100

Jankelevitch, Vladimir. (著)・仲澤紀雄 (訳) 1978 死 みすず書房

金児暁嗣 1994 大学生とその両親の死の不安と死観 人文研究, 46(10), 537-564

木村正治・広海義介 1990 大学生の死の不安に影響を及ぼす因子について「死の教育」のための基礎的調査の分析 熊大教育実践研究, 第 7 号, 1-8

厚生労働省 2020 令和元年版自殺対策白書

厚生労働省自殺対策推進室 警察庁生活安全局生活安全企画課 2021 令和 2 年中における自殺の状況

隈元みちる 2003 死別による生の意味の変化に関する一考察 - 「異界」との関わりのなかから - 心理臨床学研究, 21 (1), 25-33

倉田真由美 2008 大学生の死に対する態度と関連因子の検討 立命館人間科学研究, 16, 95-104

楠葉洋子・橋爪可織・田上純子・小野真奈美・藤野裕子・森下暁・藤本裕二・浦田秀子 2012 医療系大学 1 年生がイメージする良い死 保健学研究, 24 (2), 17-24

増田公男 2012 女子大学生における死のイメージ 金城学院大学論集 人文学編, 第 9 巻, 第 1 号, 86-92

- 松下千夏 2009 青年期の死の不安と死生観－高齢者との比較から－ 龍谷大学大学院文学研究科紀要, 31, 103-123
- 松下姫歌・尾方綾 2007 青年期における死の不安と「死」・「生」・「自己」のイメージ－DASとSD法を用いて－ 広島大学心理学研究, 第7号, 325-337
- 松下姫歌・尾方綾 2009 死別体験と「死」のイメージおよび死への態度との関連 広島大学大学院教育学研究科紀要, 第三部, 第58号, 159-168
- 宮澤安紀・尾角光美 2021 死をめぐる新型コロナウイルス感染症の影響－葬送文化と死別・グリーフサポートの観点から－ 現代宗教 2021, 203-234
- 長崎雅子・松岡文子・山下一也 2006 年代および性別による死生観の違い－非医療従事者を対象としたアンケート調査を通して－ 島根県立看護短期大学紀要, 第12巻, 9-18
- 尾方綾 2011 死別体験および死のイメージに関する心理学研究の動向と展望 広島大学大学院教育学研究科紀要, 第三部, 第60号, 171-179
- 尾方綾・岡本祐子 2012 青年期における死の不安と「死」・「生」・「自己」のイメージ 広島大学心理学研究, 第12号, 137-154
- 大西将史 2008 青年期における特性罪悪感の構造－罪悪感の概念整理と精神分析理論に依拠した新たな特性罪悪感尺度の作成 パーソナリティ研究, 第16巻, 第2号, 171-184
- 李敏子 1990 生, 死, 言葉, 身体 of the イメージ－青年期を対象として－ 心理学研究 61, 2, 79-86
- 齋藤英子・林かおり・藤野文代 2002 大学生の死のイメージに関する研究～TEG・Self-Esteem・身近な人の死の経験による分析～ 群馬保健学紀要, 23, 49-53
- 渋谷園枝・渋谷昌三 1991 「生」と「死」のイメージ調査の基礎的分析 山梨医大紀要, 第8巻, 41-52
- 下仲順子 1980 青年群との対比における老人の自己概念－世代差, 性差を中心として－ 教育心理学研究, 第28巻, 第4号, 39-45
- 園田麻利子・上原充世 2007 ターミナルケアの授業における学生の死生観に関する検討 鹿児島純心女子大学看護栄養学部紀要, Vol.11, 21-35
- Sueki Hajime & Ueda Michiko 2021 Short-term effect of the COVID-19 pandemic on suicidal ideation: A prospective cohort study. Crisis [online ahead of print] .doi10.1027/0227-5910/a000797.
- 杉岡正典・若林紀乃 2012 大学生を対象とした自殺予防教育に関する基礎的研究 広島文化学園大学学芸学部紀要, 2, 9-15
- 鈴木康明 2014 デス・エデュケーションの効果に関する探索的研究 東京福祉大学大学院紀要, 第5巻, 第1号, 11-18
- 高橋一公・中川佳子(編) 2019 発達心理学 15講 第3版 北大路書房
- 高橋祥友 2000 青少年の自殺の病理 医学のあゆみ, Vol.194, No.6, 496-500

竹島正 2021 自殺対策の現状と課題 自殺対策の振り返りとコロナ禍の経験をもとに 臨床心理学, 第 21 巻, 第 5 号, 509-514

田中キミ子・柳則子・水口陽子・山田洋子 1998 看護者の死に対するイメージに関する研究－「患者の死のイメージ」と「自分の死のイメージ」の検討－ 新潟県立看護短期大学紀要, 4 巻, 83-92

丹下智香子 2002 「死」からの連想語の KJ 法による分類－死生観の構造の検討－ 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 心理発達科学, 49, 157-168

丹下智香子 2004 青年前期・中期における死に対する態度の変化 発達心理学研究, 15 (1), 65-76

得丸定子・小林輝紀・平和章・松岡律 2006 日本の大学生における死と死後の不安 日本家政学会誌, Vol.57, No.6, 411-419

富松梨花子・稲谷ふみ枝 2012 死生観の世代間研究 久留米大学心理学研究, 11, 45-54

上田路子 2021 コロナ下における自殺 現状と対策の方法 臨床心理学, 第 21 巻, 第 5 号, 569-575

Walter, Tony. (著)・堀江宗正 (訳) 2020 いま死の意味とは 岩波書店

山下愛子・橋本和幸・高木秀明 2006 大学生における死生観の構造および孤独感との関連 横浜国立大学教育相談・支援総合センター研究論集 6, 39-56

〈謝辞〉

本論文を執筆するにあたり, 研究計画から調査実施, 修士論文完成までに数々のご指導ご鞭撻を頂きました, 指導教官の関西福祉科学大学大学院社会福祉学研究科心理臨床学専攻 小笠原將之教授に心より感謝申し上げます。また, 副指導教官としてご指導ご鞭撻を頂きました, 心理臨床学専攻 宇恵弘教授, 心理臨床学専攻 栗村昭子教授と, 統計分析に関するご助言を頂きました, 心理臨床学専攻 多田美香里教授にも深く感謝申し上げます。さらに, 調査にご尽力頂きました, 大学院生の皆様と, 調査に快くご協力頂きました, 調査対象者の皆様にも厚く御礼申し上げます。そして, 心理学や死生観への興味のきっかけを与えてくださった祖父母ならびに家族にも, この場を借りて深謝申し上げます。

大学生の死に対するイメージについての調査のお願い

この調査は修士論文研究として、大学生の死に対するイメージについて調べようとするものです。質問紙に落丁がないかをご確認の上、それぞれの質問項目に最も当てはまると思うものを選択してください。

ご回答いただいた内容は本研究のみに使用し、統計的に処理致します。研究結果についても、個人情報保護法を遵守し、その結果から個人が特定されることはありませんのでご安心ください。

ご同意頂けない場合は、白紙のまま提出して頂いて問題ありません。また、調査にご協力頂けないことにより不利益が生じることもありません。以上をご理解頂ける方は、ぜひ調査にご協力よろしくお願い致します。

調査者：関西福祉科学大学 社会福祉学研究科
心理臨床学専攻 修士2年 南茉莉
修士論文指導教員：小笠原將之教授

①性別 (男 ・ 女)

②年齢 (歳)

③トラウマ経験 (有 ・ 無)

※トラウマ経験：死別・災害・事故・事件・怪我・病気などといった自分または他人に迫る危険を，自身が経験・目撃・直面したりし，自身の生命や存在に強い衝撃をもたらす経験。

有を選択された方は、下記について差し支えない範囲でご記入ください。

※なお，衝撃度は 0 (全く衝撃を受けなかった) ～10 (自分が崩壊してしまうほどの激しい混乱に襲われた) を目安に，この範囲内でお答えください。

種類 (死別 ・ 災害 ・ 事故 ・ 事件 ・ けが ・ 病気)
上記以外 ()
どなたが ()
時期 (歳頃)
具体的内容 ()
衝撃度 (/10)

種類 (死別 ・ 災害 ・ 事故 ・ 事件 ・ けが ・ 病気)
上記以外 ()
どなたが ()
時期 (歳頃)
具体的内容 ()
衝撃度 (/10)

種類 (死別 ・ 災害 ・ 事故 ・ 事件 ・ けが ・ 病気)
上記以外 ()
どなたが ()
時期 (歳頃)
具体的内容 ()
衝撃度 (/10)

質問は次のページに続きます。

あなたは普段、自分自身についてどう感じていますか。
最も当てはまるものに○をつけてください。

	ほ と ん ど な い	と き ど き あ る	か な り あ る	ほ と ん ど い つ も
--	----------------------------	----------------------------	-----------------------	---------------------------------

楽しい気分になる	1	2	3	4
神経質で落ち着かない	1	2	3	4
自分に満足している	1	2	3	4
取り残されたように感じる	1	2	3	4
気が休まっている	1	2	3	4
冷静で落ち着いている	1	2	3	4
困ったことが次々におこり克服できないと感じる	1	2	3	4
本当はそう大したことでもないのに心配しすぎる	1	2	3	4
しあわせだと感じる	1	2	3	4
いろいろ頭にかんできて仕事や勉強が手につかない	1	2	3	4
自信がない	1	2	3	4
安心感がある	1	2	3	4
すぐにものごとをきめることができる	1	2	3	4
力不足を感じる	1	2	3	4
心が満ち足りている	1	2	3	4
つまらないことが頭にうかび悩まされる	1	2	3	4
ひどく失望するとそれが頭から離れない	1	2	3	4
落ちついた人間だ	1	2	3	4
気になることを考え出すと緊張したり混乱したりする	1	2	3	4
うれしい気分になる	1	2	3	4

質問は次のページに続きます。

あなたは普段、自分自身についてどう感じていますか。
最も当てはまるものに○をつけてください。

	ほとんどのない	ときどきある	かなりある	ほとんどのいつも
普段は何でもないことがわずらわしい	1	2	3	4
食べたくない、食欲が落ちた	1	2	3	4
家族や友人から励ましてもらっても気分が晴れない	1	2	3	4
他の人と同じ程度には能力があると思う。	1	2	3	4
物事に集中できない	1	2	3	4
ゆううつだ	1	2	3	4
何をするのも面倒だ	1	2	3	4
これから先のことについて積極的に考えることができる	1	2	3	4
過去のことにについてくよくよ考える	1	2	3	4
何か恐ろしい気持ちがある	1	2	3	4
なかなか眠れない	1	2	3	4
生活について不満なく過ごせる	1	2	3	4
普段より口数が少ない、口が重い	1	2	3	4
ひとりぼっちで寂しい	1	2	3	4
みんながよそよそしいと思う	1	2	3	4
毎日が楽しい	1	2	3	4
急に泣きだすことがある	1	2	3	4
悲しいと感じる	1	2	3	4
みんなが自分をきらっていると感じる	1	2	3	4
やるべきことが手につかない	1	2	3	4
自分だけが目をかけてもらっているようで、他の人に対して申し訳なく思う	1	2	3	4
自分の方が得をしているようで、相手に申し訳なく思う	1	2	3	4
ひねくれたあとで、相手に対してうしろめたく思う	1	2	3	4
恨みを抱いていた相手に対して、あとですまないと思う	1	2	3	4
何か過ちを犯しているようで、罪悪感を感じる	1	2	3	4
何となく罪悪感を感じて、いろいろな物事に積極的に取り組めない	1	2	3	4
相手に悪いと思って、誤りを指摘することにためらいを感じる	1	2	3	4
本当のことで、それをあからさまに相手に伝えることに罪悪感を感じる	1	2	3	4

質問は次のページに続きます。

4

あなたは**自身の死**について
 どんなイメージを持っていますか。
 最も当てはまるものに○をつけてください。

当てはまらない
 当てはまる
 あまり
 やや
 当てはまる

終わりの	1	2	3	4
はげしい	1	2	3	4
つめたい	1	2	3	4
楽な	1	2	3	4
軽々しい	1	2	3	4
未知の	1	2	3	4
非日常の	1	2	3	4
平等な	1	2	3	4
こわい	1	2	3	4
明るい	1	2	3	4
みにくい	1	2	3	4
はっきりした	1	2	3	4
苦しい	1	2	3	4
始まりの	1	2	3	4
暗い	1	2	3	4
日常の	1	2	3	4
ぼんやりした	1	2	3	4
重々しい	1	2	3	4
既知の	1	2	3	4
うつくしい	1	2	3	4
おだやかな	1	2	3	4
あたたかい	1	2	3	4
不平等な	1	2	3	4
優しい	1	2	3	4

質問は次のページに続きます。

あなたは近親者（家族・近しい親族・ごく親しい友人）の死について
 どんなイメージを持っていますか。
 最も当てはまるものに○をつけてください。

当	当	あ	当	や	当
て	て	ま	て	や	て
は	は	り	は	ま	は
ま	ま	ま	ま	ま	ま
ら	ら	ら	ら	ら	ら
な	な	な	な	な	な
い	い	い	い	い	い

みにくい	1	2	3	4
日常の	1	2	3	4
ぼんやりした	1	2	3	4
はげしい	1	2	3	4
暗い	1	2	3	4
楽な	1	2	3	4
終わりの	1	2	3	4
明るい	1	2	3	4
不平等な	1	2	3	4
未知の	1	2	3	4
軽々しい	1	2	3	4
うつくしい	1	2	3	4
こわい	1	2	3	4
あたたかい	1	2	3	4
おだやかな	1	2	3	4
はっきりした	1	2	3	4
既知の	1	2	3	4
平等な	1	2	3	4
苦しい	1	2	3	4
重々しい	1	2	3	4
非日常の	1	2	3	4
優しい	1	2	3	4
つめたい	1	2	3	4
始まりの	1	2	3	4

質問は次のページに続きます。

あなたは他人の死について
 どんなイメージを持っていますか。
 最も当てはまるものに○をつけてください。

当
て
は
ま
ら
な
い

当
て
は
ま
ら
な
い

あ
ま
り

当
て
は
ま
る

や
や

当
て
は
ま
る

不平等な	1	2	3	4
あたたかい	1	2	3	4
非日常の	1	2	3	4
優しい	1	2	3	4
つめたい	1	2	3	4
うつくしい	1	2	3	4
苦しい	1	2	3	4
平等な	1	2	3	4
既知の	1	2	3	4
日常の	1	2	3	4
ぼんやりした	1	2	3	4
始まりの	1	2	3	4
みにくい	1	2	3	4
明るい	1	2	3	4
おだやかな	1	2	3	4
重々しい	1	2	3	4
こわい	1	2	3	4
楽な	1	2	3	4
終わりの	1	2	3	4
未知の	1	2	3	4
暗い	1	2	3	4
はげしい	1	2	3	4
軽々しい	1	2	3	4
はっきりした	1	2	3	4

質問は以上です。
 ご協力ありがとうございました。